

令和 6 年 度

# 教 育 要 項

( 別 冊 )

## 総合教育選択科目



自治医科大学 医学部

学籍番号 (所属)

---

氏 名

---

# 教育要項別冊 総合教育選択科目 目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 科目番号表 .....        | 1  |
| 2. 教育目標 .....         | 3  |
| 3. 履修要領 .....         | 3  |
| 4. 令和6年度開講日 .....     | 5  |
| 5. 令和6年度選択科目時間割 ..... | 7  |
| 6. 人文社会系科目 .....      | 9  |
| 7. 自然系科目 .....        | 47 |
| 8. 外国語系科目 .....       | 73 |

# 1. 総合教育選択科目番号表

| 科目番号 | L1 | 総合教育選択科目 | 主任教授 | 菊地 元史 |
|------|----|----------|------|-------|
|------|----|----------|------|-------|

## L11 人文社会系

| 授 業 科 目    | 科目番号／科目名              | 責任者     | ページ |
|------------|-----------------------|---------|-----|
| L111 哲学    | L1111-5 心と体の哲学        | 小 野 純 一 | 10  |
|            | L1111-6 西洋音楽史Ⅰ        | 吹 田 映 子 | 11  |
|            | L1111-7 西洋音楽史Ⅱ        | 吹 田 映 子 | 12  |
|            | L1111-8 西洋音楽史Ⅲ        | 吹 田 映 子 | 13  |
|            | L1111-9 西洋音楽史Ⅳ        | 吹 田 映 子 | 14  |
|            | L1113-1 医学・医療と芸術      | 吹 田 映 子 | 15  |
|            | L1113-6 西洋美術史         | 吹 田 映 子 | 16  |
|            | L1113-7 アートセラピー入門     | 吹 田 映 子 | 17  |
|            | L1114-4 仏教思想史Ⅰ        | 小 野 純 一 | 18  |
|            | L1114-5 仏教思想史Ⅱ        | 小 野 純 一 | 19  |
|            | L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ     | 小 野 純 一 | 20  |
|            | L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ     | 小 野 純 一 | 21  |
|            | L1118-9 国家とは何か        | 小 野 純 一 | 22  |
|            | L1119-1 はじめての哲学       | 小 野 純 一 | 23  |
|            | L1119-2 哲学の入門         | 小 野 純 一 | 24  |
|            | L1119-3 言語文化入門Ⅰ（アラビア） | 小 野 純 一 | 25  |
|            | L1119-4 言語文化入門Ⅱ（アラビア） | 小 野 純 一 | 26  |
| L112 心理学   | L1122-3 対人交流の臨床心理学    | 佐々木 裕 子 | 27  |
|            | L1122-4 母子関係論と人格発達    | 佐々木 裕 子 | 28  |
|            | L1122-5 事例から学ぶ心理臨床    | 佐々木 裕 子 | 29  |
|            | L1123-3 自己理解の心理アセスメント | 佐々木 裕 子 | 30  |
|            | L1124 心と体の心理支援法       | 佐々木 裕 子 | 31  |
| L113 文学    | L1135 文学的探索           | 吹 田 映 子 | 32  |
|            | L1136 ジェンダー文化論        | 吹 田 映 子 | 33  |
| L114 医学古典語 | L1140-1 医学古典語Ⅰ        | 小 野 純 一 | 34  |
|            | L1140-2 医学古典語Ⅱ        | 小 野 純 一 | 35  |
| L115 社会学   | L1150 高齢社会論           | 青 山 泰 子 | 36  |
|            | L1151 社会を診る方法         | 青 山 泰 子 | 37  |
|            | L1153 医療人類学           | 田 中 大 介 | 38  |
|            | L1154 異文化理解入門         | 田 中 大 介 | 39  |
|            | L1155 社会学概論           | 田 中 大 介 | 40  |
|            | L1156 文化人類学概論         | 田 中 大 介 | 41  |
|            | L1157 医療と民俗学          | 菊 地 元 史 | 42  |
|            | L1158-3 国際社会論         | 山 邊 昭 則 | 43  |
|            | L1158-7 学術と社会         | 山 邊 昭 則 | 44  |
|            | L1159 医師としての社会学       | 宮 道 亮 輔 | 45  |

## L12 自然系

| 授 業 科 目    | 科目番号／科目名                         | 責任者     | ページ |
|------------|----------------------------------|---------|-----|
| L121 数学    | L1210 医学・医療における数学                | 奥 田 浩   | 49  |
|            | L1212 基礎数理遺伝学演習                  | 奥 田 浩   | 50  |
|            | L1215 臨床医学と数学                    | 奥 田 浩   | 51  |
|            | L1216 ゲノム医療がもたらすもの               | 奥 田 浩   | 52  |
|            | L1217 パソコン・IT (インターネット) で学ぶゲノム医療 | 奥 田 浩   | 53  |
| L122 物理学   | L1220-4 光科学の医学・生命科学への応用          | 佐 藤 文 菜 | 54  |
|            | L1220-5 疾病関連タンパク質概論              | 山 本 直 樹 | 55  |
| L124 生物学   | L1241-1 発生メカニズム                  | 佐 藤 滋   | 56  |
|            | L1242-3 「形」から学ぶヒトの生物学1           | 菊 地 元 史 | 57  |
|            | L1242-4 「形」から学ぶヒトの生物学2           | 菊 地 元 史 | 58  |
|            | L1243 生物多様性を考える                  | 菊 地 元 史 | 59  |
|            | L1245 系統発生学入門                    | 菊 地 元 史 | 60  |
| L125 保健体育  | L1254-1 体育学演習1                   | 板 井 美 浩 | 63  |
|            | L1254-2 体育学演習2                   | 板 井 美 浩 | 64  |
|            | L1254-3 体育学演習3                   | 板 井 美 浩 | 65  |
|            | L1254-4 体育学演習4                   | 板 井 美 浩 | 66  |
| L126 医療安全学 | L1261-1 シミュレーション学習入門             | 宮 道 亮 輔 | 67  |
|            | L1262-1 医療における「学習」と「教育」          | 浅 田 義 和 | 68  |
|            | L1262-2 ICT時代の情報活用力              | 浅 田 義 和 | 69  |
|            | L1263 医療安全のための理論と実践              | 前 田 佳 孝 | 70  |
| L127 薬理学   | L1270 医薬品研究の歴史                   | 興 水 崇 鏡 | 71  |

## L13 外国語系

| 授 業 科 目    | 科目番号／科目名                                          | 責任者              | ページ |
|------------|---------------------------------------------------|------------------|-----|
| L131 英語    | L1315-7 World Countries and Culture I             | R.Dilenschneider | 75  |
|            | L1316-7 Critical Thinking                         | R.Dilenschneider | 76  |
|            | L1316-15 Music and Lyrics                         | R.Dilenschneider | 77  |
|            | L1316-16 Readings & Discussions I                 | R.Dilenschneider | 78  |
|            | L1316-17 Readings & Discussions II                | R.Dilenschneider | 79  |
|            | L1316-18 Creative Compositions                    | R.Dilenschneider | 80  |
|            | L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English   | A.J.Lebowitz     | 81  |
|            | L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion  | A.J.Lebowitz     | 82  |
|            | L1317-6 Intro to Research Paper Reading           | A.J.Lebowitz     | 83  |
|            | L1317-7 Medical History Topics English Discussion | A.J.Lebowitz     | 84  |
|            | L1318 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～                          | A.J.Lebowitz     | 85  |
| L132 ドイツ語  | L1320-3 はじめてのドイツ語                                 | 小 野 純 一          | 86  |
|            | L1320-4 ドイツ語初級                                    | 小 野 純 一          | 87  |
| L135 フランス語 | L1350-3 はじめてのフランス語                                | 吹 田 映 子          | 88  |
|            | L1350-7 フランス語文法 I                                 | 吹 田 映 子          | 89  |
|            | L1350-8 フランス語文法 II                                | 吹 田 映 子          | 90  |
|            | L1350-9 フランス語を読む                                  | 吹 田 映 子          | 91  |
|            | L1350-10 フランス語で歌う                                 | 吹 田 映 子          | 92  |

## 2. 総合教育科目の教育目標

総合教育の目標は、さまざまな学問分野に触れて、自己と社会について多様な視点および接点を獲得し、心と体と知性の全てにわたって調和のとれた個性あふれる自己形成を行うことにある。学生は一人一人の関心と個性とに応じて、主体性を持って選択科目を構成し、自己教育さらには生涯教育への第一歩を歩み出すことが期待される。

## 3. 総合教育選択科目履修要領

### 1) 科目構成

総合教育選択科目は、人文社会系、自然系、外国語系の三つの系に分類され、100前後の科目が開講される。

### 2) 選択科目の履修単位

総合教育選択科目は10単位以上履修しなければならない。選択科目はすべて1単位である。開講予定の科目は100前後あるが、その中から1年次に11単位履修する。開講されている科目の数に比べて履修しなければならない単位数が少ないので、選択の自由度が高いのが総合教育選択科目の特徴である。

### 3) 科目選択の多様性を目指すこと

総合教育選択科目には人文社会系、自然系、外国語系の三つの系がある。それぞれの系から多様性のある選択をし、自己学習あるいは生涯学習の第一歩を踏み出すにふさわしい内容とすることが望ましい。科目には科目番号が付いている。科目番号の後に付いているA、B、C、などのアルファベットはその番号の科目が2回以上開講されていることを示すためであり、別の科目を意味するものではない。同じ科目番号の科目を間違って複数履修しないこと。

### 4) 受講人数の制限

授業内容の性質などの事情により、科目ごとに定員が決められている。定員の詳細は各系別の科目一覧あるいは各科目の要項にある。定員を超えた場合でも、なるべく希望に添えるよう配慮するが、やむを得ない場合には、抽選で受講者を決める。

### 5) 選択科目履修登録の仕方

入学前に、インターネットを利用して履修登録を行う。登録方法、締切日等については別途通知する。

### 6) 履修登録の変更

(1) 1学期に行われる科目については履修登録後の変更は原則として認めない。

(2) 履修科目の抹消は認めない。

(3) 2学期の履修科目の登録変更は、2科目まで受け付ける。ただし変更予定科目がすでに定員に達しているときには、別の科目を選択しなければならない。

(4) 履修登録の変更の受付期間は、掲示にて学事課が指定する。

### 7) 出席の確認

各科目責任者によって異なるが、原則として毎回の授業の際に出席簿に署名し、担当教員が捺印することによって出席が確認される。

### 8) 成績評価ならびに再試験・再履修について

(1) 原則として講義は授業回数の3分の2を超える（10回中7回以上）出席、演習及び実習は5分の4を超える（10回中9回以上）出席をした者を、受験資格（評価を受ける資格）を有する者とする。

(2) 単位取得資格を有する学生に対して、試験、レポート、平常点（日常テスト、態度評価、

出席点等を含む)のいずれかもしくは二つ以上を組み合わせで成績評価を行なう。詳細は各科目の当該欄を参照願いたい。

- (3) 評価が60点に達せず、不合格になった場合は、原則として試験期間終了後、2週間以内に、各科目責任者の指導のもと、再試験、レポート再提出、その他の方法によって、再評価を受ける。この期間内に合格点が得られない場合、もしくは評価が完了しない場合、その科目の単位は修得できない。
- (4) 1学年終了時まで選択科目10単位以上を取得することが、2学年への進級要件である。

※ 上記の履修登録方法については、変更されることもあるので掲示等に注意すること。

#### 4. 令和6年度 総合教育選択科目 開講日

|     | 1 学期                                                                                                                       | 2 学期                                                                                                                              |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 火曜日 | 3 時限／ A                                                                                                                    | 1 時限／ F<br>2 時限／ G                                                                                                                |
|     | 2024年 4月16日(火)<br>4月23日(火)<br>5月 7日(火)<br>5月14日(火)<br>5月21日(火)<br>5月28日(火)<br>6月 4日(火)<br>6月11日(火)<br>6月18日(火)<br>6月25日(火) | 2024年 9月10日(火)<br>9月17日(火)<br>9月24日(火)<br>10月 1日(火)<br>10月 8日(火)<br>10月15日(火)<br>10月22日(火)<br>10月29日(火)<br>11月 5日(火)<br>11月12日(火) |
| 水曜日 | 1 時限／ B<br>5 時限／ C                                                                                                         | 1 時限／ H<br>3 時限／ I                                                                                                                |
|     | 2024年 4月17日(水)<br>4月24日(水)<br>5月 8日(水)<br>5月15日(水)<br>5月22日(水)<br>5月29日(水)<br>6月12日(水)<br>6月19日(水)<br>6月26日(水)<br>7月 3日(水) | 2024年 9月11日(水)<br>9月18日(水)<br>9月25日(水)<br>10月 2日(水)<br>10月 9日(水)<br>10月16日(水)<br>10月23日(水)<br>10月30日(水)<br>11月 6日(水)<br>11月13日(水) |
| 木曜日 | 2 時限／ D<br>3 時限／ E                                                                                                         | 1 時限／ J<br>2 時限／ K                                                                                                                |
|     | 2024年 4月11日(木)<br>4月18日(木)<br>4月25日(木)<br>5月 9日(木)<br>5月16日(木)<br>5月23日(木)<br>5月30日(木)<br>6月13日(木)<br>6月20日(木)<br>6月27日(木) | 2024年 9月12日(木)<br>9月19日(木)<br>9月26日(木)<br>10月 3日(木)<br>10月17日(木)<br>10月24日(木)<br>10月31日(木)<br>11月 7日(木)<br>11月14日(木)<br>11月21日(木) |

# 令和6年度 総合教育選択科目 開講予定時間割

## 1 学年 1 学期

|      | 月 | 火      | 水      | 木      | 金 |
|------|---|--------|--------|--------|---|
| 1 時限 |   |        | 総合教育 B |        |   |
| 2 時限 |   |        |        | 総合教育 D |   |
| 3 時限 |   | 総合教育 A |        | 総合教育 E |   |
| 4 時限 |   |        |        |        |   |
| 5 時限 |   |        | 総合教育 C |        |   |

## 1 学年 2 学期

|      | 月 | 火      | 水      | 木      | 金 |
|------|---|--------|--------|--------|---|
| 1 時限 |   | 総合教育 F | 総合教育 H | 総合教育 J |   |
| 2 時限 |   | 総合教育 G |        | 総合教育 K |   |
| 3 時限 |   |        | 総合教育 I |        |   |
| 4 時限 |   |        |        |        |   |
| 5 時限 |   |        |        |        |   |

## 5. 令和6年度総合教育選択科目時間割

### 1 学 期

| 開講曜日                     |       | 火曜日                                                                 |
|--------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------|
| 3時限A                     | 人文社会系 | L1111-5A 心と体の哲学 (中山)                                                |
|                          |       | L1111-6 ※ 西洋音楽史 I (加藤)                                              |
|                          |       | L1119-3 言語文化入門 I (アラビア) (小野)                                        |
|                          |       | L1122-4A 母子関係論と人格発達 (佐々木)                                           |
|                          |       | L1154A 異文化理解入門 (渥美)                                                 |
|                          | 自然系   | L1210 医学・医療における数学 (奥田)                                              |
|                          |       | L1254-1A 体育学演習 1 (板井)                                               |
|                          |       | L1262-2A ICT 時代の情報活用力 (浅田)                                          |
|                          | 外国語系  | L1316-15A Music and Lyrics (Dilenschneider)                         |
|                          |       | L1317-2A Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化 (Lebowitz) |
| L1350-3A はじめてのフランス語 (吹田) |       |                                                                     |

| 開講曜日                 |        | 水 曜 日        |                                                                    | 木 曜 日                |                      |                                                                    |
|----------------------|--------|--------------|--------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1<br>時<br>限<br><br>B | 人文社会系  | L1119-1      | はじめての哲学（小野）                                                        | 2<br>時<br>限<br><br>D | L1111-7 ※ 西洋音楽史Ⅱ（加藤） |                                                                    |
|                      |        | L1135A       | 文学的探索（鈴木）                                                          |                      | L1113-7A             | アートセラピー入門（吹田）                                                      |
|                      |        | L1136A       | ジェンダー文化論（吹田）                                                       |                      | L1118-9              | 国家とは何か（小野）                                                         |
| L1154B               |        | 異文化理解入門（渥美）  | L1124A                                                             |                      | 心と体の心理支援法（佐々木）       |                                                                    |
|                      | 自 然 系  | L1216A       | ゲノム医療がもたらすもの（奥田）                                                   |                      | L1155A               | 社会学概論（渥美）                                                          |
|                      |        | L1242-4 ※    | 「形」から学ぶヒトの生物学2（菊地）                                                 |                      | L1241-1              | 発生メカニズム（佐藤滋）                                                       |
|                      |        | L1270A       | 医薬品研究の歴史（奥水）                                                       |                      | L1261-1A             | シミュレーション学習入門（宮道）                                                   |
|                      | 外国語系   | L1316-16     | Readings & Discussions I(Dilenschneider)                           |                      | L1262-1A             | 医療における「学習」と「教育」(浅田)                                                |
|                      |        | L1317-7A     | Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション (Lebowitz) |                      | L1316-7              | Critical Thinking (Dilenschneider)                                 |
|                      |        | L1320-3      | はじめてのドイツ語（中山）                                                      |                      | L1317-5A             | Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション (Lebowitz) |
| 5<br>時<br>限<br><br>C | 人文社会系  | L1111-5B     | 心と体の哲学（中山）                                                         | 3<br>時<br>限<br><br>E | L1318A               | 英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～(清水)                                             |
|                      |        | L1113-6A     | 西洋美術史（吹田）                                                          |                      | L1350-7A             | フランス語文法Ⅰ（鈴木）                                                       |
|                      |        | L1135B       | 文学的探索（鈴木）                                                          |                      | L1113-7B             | アートセラピー入門（吹田）                                                      |
|                      |        | L1140-1 ※    | 医学古典語Ⅰ（小野）                                                         |                      | L1114-4              | 仏教思想史Ⅰ（小野）                                                         |
|                      |        | L1150        | 高齢社会論（青山）                                                          |                      | L1115-1              | キリスト教思想史Ⅰ（加藤）                                                      |
|                      |        | L1154C       | 異文化理解入門（田中）                                                        |                      | L1124B               | 心と体の心理支援法（佐々木）                                                     |
|                      |        | L1159        | 医師としての社会学（宮道）                                                      |                      | L1151A               | 社会を診る方法（青山）                                                        |
| 自 然 系                | L1215A | 臨床医学と数学（奥田）  | L1153A                                                             | 医療人類学（田中）            |                      |                                                                    |
|                      | L1270B | 医薬品研究の歴史（奥水） | L1158-3                                                            | 国際社会論（山邊）            |                      |                                                                    |
|                      | 外国語系   | L1317-6A     | Intro to Research Paper Reading論文読入門 (Lebowitz)                    |                      | L1242-3 ※            | 「形」から学ぶヒトの生物学1(菊地)                                                 |
|                      |        |              |                                                                    |                      | L1254-2A             | 体育学演習2（板井）                                                         |
|                      |        |              |                                                                    |                      | L1261-1B             | シミュレーション学習入門(宮道)                                                   |
|                      |        |              |                                                                    |                      | L1350-7B             | フランス語文法Ⅰ（鈴木）                                                       |

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

## 2 学 期

| 開講曜日             |       | 火 曜 日                                                   |                                                                                                                                                |
|------------------|-------|---------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>時<br>限<br>F | 人文社会系 | L1113-1A<br>L1122-3A<br>L1154D<br>L1157                 | 医学・医療と芸術（吹田）<br>対人交流の臨床心理学（佐々木）<br>異文化理解入門（渥美）<br>医療と民俗学（立石）                                                                                   |
|                  | 自 然 系 | L1216B<br>L1254-1B                                      | ゲノム医療がもたらすもの（奥田）<br>体育学演習 1（板井）                                                                                                                |
|                  | 外国語系  | L1316-17<br>L1317-7B<br>L1320-4 ※<br>L1350-8A ※         | Readings & Discussions II (Dilenschneider)<br>Medical History Topics English Discussion 医学史英語ディスカッション (Lebowitz)<br>ドイツ語初級（中山）<br>フランス語文法Ⅱ（鈴木） |
| 2<br>時<br>限<br>G | 人文社会系 | L1111-5C<br>L1111-8 ※<br>L1113-1B<br>L1122-3B<br>L1154E | 心と体の哲学（中山）<br>※西洋音楽史Ⅲ（加藤）<br>医学・医療と芸術（吹田）<br>対人交流の臨床心理学（佐々木）<br>異文化理解入門（渥美）                                                                    |
|                  | 自 然 系 | L1217<br>L1220-5<br>L1243A<br>L1262-2B                  | パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療（奥田）<br>疾病関連タンパク質概論（山本）<br>生物多様性を考える（菊地）<br>ICT時代の情報活用力（浅田）                                                            |
|                  | 外国語系  | L1316-15B<br>L1317-2B<br>L1350-8B ※                     | Music and Lyrics (Dilenschneider)<br>Cultural Tendencies of Nihon in English 英語で日本文化 (Lebowitz)<br>フランス語文法Ⅱ（鈴木）                                |

| 開講曜日             |       | 水 曜 日                                                  |                                                                                 | 木 曜 日            |                                                         |                                                                                                                                        |
|------------------|-------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>時<br>限<br>H | 人文社会系 | L1119-2<br>L1122-4B<br>L1136B<br>L1154F                | 哲学の入門（小野）<br>母子関係論と人格発達（佐々木）<br>ジェンダー文化論（吹田）<br>異文化理解入門（渥美）                     | 1<br>時<br>限<br>J | L1114-5<br>L1122-5A<br>L1135C<br>L1151B<br>L1155B       | 仏教思想史Ⅱ（小野）<br>事例から学ぶ心理臨床（佐々木）<br>文学的探索（鈴木）<br>社会を診る方法（青山）<br>社会学概論（渥美）                                                                 |
|                  | 自 然 系 | L1212<br>L1245 ※<br>L1254-3                            | 基礎数理遺伝学演習（奥田）<br>※系統発生学入門（菊地）<br>体育学演習 3（板井）                                    |                  | L1254-2B<br>L1261-1C                                    | 体育学演習 2（板井）<br>シミュレーション学習入門（宮道）                                                                                                        |
|                  | 外国語系  | L1317-6B<br>L1350-10 ※                                 | Intro to Research Paper Reading 論文読入門(Lebowitz)<br>※フランス語で歌う（鈴木）                |                  | L1315-7<br>L1317-5B<br>L1350-3B                         | World Countries and Culture I (Dilenschneider)<br>Medical Ethics Topics English Discussion 臨床倫理英語ディスカッション (Lebowitz)<br>はじめてのフランス語（吹田） |
| 3<br>時<br>限<br>I | 人文社会系 | L1113-6B<br>L1115-2 ※<br>L1123-3<br>L1140-2 ※<br>L1156 | 西洋美術史（吹田）<br>※キリスト教思想史Ⅱ（加藤）<br>自己理解の心理アセスメント(佐々木)<br>※医学古典語Ⅱ（小野）<br>文化人類学概論（田中） | 2<br>時<br>限<br>K | L1111-9 ※<br>L1119-4 ※<br>L1122-5B<br>L1153B<br>L1158-7 | ※西洋音楽史Ⅳ（加藤）<br>※言語文化入門Ⅱ（アラビア）（小野）<br>事例から学ぶ心理臨床（佐々木）<br>医療人類学（田中）<br>学術と社会（山邊）                                                         |
|                  | 自 然 系 | L1215B<br>L1243B<br>L1254-4                            | 臨床医学と数学（奥田）<br>生物多様性を考える（菊地）<br>体育学演習 4（板井）                                     |                  | L1220-4<br>L1262-1B<br>L1263                            | 光科学の医学・生命科学への応用（佐藤文）<br>医療における「学習」と「教育」(浅田)<br>医療安全のための理論と実践（前田）                                                                       |
|                  | 外国語系  | L1350-9 ※                                              | フランス語を読む（鈴木）                                                                    |                  | L1316-18<br>L1318B                                      | Creative Compositions (Dilenschneider)<br>英語音声学入門～正しい発声を学ぼう～（清水）                                                                       |

科目番号の A、B 等の記号はその科目が他の時間にも開講されていることを示す。

※がついている科目は、履修条件が設定されているため、各科目の紹介ページをよく読むこと。

〔L11〕 人文社会系科目

# 人文社会系科目一覧

| 科目番号／授業科目             | 責任者 | 学期／曜／時限                                                        | 授業形態  | 単 位 | 定 員 | 評 価          |
|-----------------------|-----|----------------------------------------------------------------|-------|-----|-----|--------------|
| L1111-5 心と体の哲学        | 小 野 | A・Ⅰ・火・3<br>B・Ⅰ・水・5<br>C・Ⅱ・火・2                                  | 演 習   | 1   | 10  | 態度・課題        |
| L1111-6 西洋音楽史Ⅰ        | 吹 田 | Ⅰ・火・3                                                          | 講 義   | 1   | 15  | 出席・レポート・態度   |
| L1111-7 西洋音楽史Ⅱ        | 吹 田 | Ⅰ・木・2                                                          | 講 義   | 1   | 15  | 出席・レポート・態度   |
| L1111-8 西洋音楽史Ⅲ        | 吹 田 | Ⅱ・火・2                                                          | 講 義   | 1   | 15  | 出席・レポート・態度   |
| L1111-9 西洋音楽史Ⅳ        | 吹 田 | Ⅱ・木・2                                                          | 講 義   | 1   | 15  | 出席・レポート・態度   |
| L1113-1 医学・医療と芸術      | 吹 田 | A・Ⅱ・火・1<br>B・Ⅱ・火・2                                             | 講 義   | 1   | 30  | 出席・レポート 他    |
| L1113-6 西洋美術史         | 吹 田 | A・Ⅰ・水・5<br>B・Ⅱ・水・3                                             | 講 義   | 1   | 30  | 出席・レポート 他    |
| L1113-7 アートセラピー入門     | 吹 田 | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅰ・木・3                                             | 講義・演習 | 1   | 15  | 出席・レポート 他    |
| L1114-4 仏教思想史Ⅰ        | 小 野 | Ⅰ・木・3                                                          | 講 義   | 1   | 20  | レポート         |
| L1114-5 仏教思想史Ⅱ        | 小 野 | Ⅱ・木・1                                                          | 講 義   | 1   | 20  | レポート         |
| L1115-1 キリスト教思想史Ⅰ     | 小 野 | Ⅰ・木・3                                                          | 講 義   | 1   | 15  | レポート・態度      |
| L1115-2 キリスト教思想史Ⅱ     | 小 野 | Ⅱ・水・3                                                          | 講 義   | 1   | 15  | レポート・態度      |
| L1118-9 国家とは何か        | 小 野 | Ⅰ・木・2                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 出席・レポート 他    |
| L1119-1 はじめての哲学       | 小 野 | Ⅰ・水・1                                                          | 講 義   | 1   | 20  | レポート 他       |
| L1119-2 哲学の入門         | 小 野 | Ⅱ・水・1                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 態度・課題        |
| L1119-3 言語文化入門Ⅰ(アラビア) | 小 野 | Ⅰ・火・3                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 出席・態度・課題     |
| L1119-4 言語文化入門Ⅱ(アラビア) | 小 野 | Ⅱ・木・2                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 出席・態度・課題     |
| L1122-3 対人交流の臨床心理学    | 佐々木 | A・Ⅱ・火・1<br>B・Ⅱ・火・2                                             | 講 義   | 1   | 20  | 課題・レポート 他    |
| L1122-4 母子関係論と人格発達    | 佐々木 | A・Ⅰ・火・3<br>B・Ⅱ・水・1                                             | 講 義   | 1   | 20  | 態度・レポート 他    |
| L1122-5 事例から学ぶ心理臨床    | 佐々木 | A・Ⅱ・木・1<br>B・Ⅱ・木・2                                             | 講 義   | 1   | 20  | 態度・レポート 他    |
| L1123-3 自己理解の心理アセスメント | 佐々木 | Ⅱ・水・3                                                          | 講義・実習 | 1   | 20  | 態度・レポート      |
| L1124 心と体の心理支援法       | 佐々木 | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅰ・木・3                                             | 講義・実習 | 1   | 15  | 出席・態度 他      |
| L1135 文学的探索           | 吹 田 | A・Ⅰ・水・1<br>B・Ⅰ・水・5<br>C・Ⅱ・木・1                                  | 講義・演習 | 1   | 10  | 出席・レポート      |
| L1136 ジェンダー文化論        | 吹 田 | A・Ⅰ・水・1<br>B・Ⅱ・水・1                                             | 講 義   | 1   | 30  | 出席・レポート 他    |
| L1140-1 医学古典語Ⅰ        | 小 野 | Ⅰ・水・5                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 小テスト         |
| L1140-2 医学古典語Ⅱ        | 小 野 | Ⅱ・水・3                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 小テスト         |
| L1150 高齢社会論           | 青 山 | Ⅰ・水・5                                                          | 講 義   | 1   | 30  | レポート・態度 他    |
| L1151 社会を診る方法         | 青 山 | A・Ⅰ・木・3<br>B・Ⅱ・木・1                                             | 講 義   | 1   | 30  | 課題・態度        |
| L1153 医療人類学           | 田 中 | A・Ⅰ・木・3<br>B・Ⅱ・木・2                                             | 講義・演習 | 1   | 30  | 出席・レポート 他    |
| L1154 異文化理解入門         | 田 中 | A・Ⅰ・火・3<br>B・Ⅰ・水・1<br>C・Ⅰ・水・5<br>D・Ⅱ・火・1<br>E・Ⅱ・火・2<br>F・Ⅱ・水・1 | 講義・演習 | 1   | 10  | 平常点・試験 他     |
| L1155 社会学概論           | 田 中 | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅱ・木・1                                             | 講義・演習 | 1   | 10  | 平常点・試験 他     |
| L1156 文化人類学概論         | 田 中 | Ⅱ・水・3                                                          | 講義・演習 | 1   | 30  | 平常点・レポート 他   |
| L1157 医療と民俗学          | 菊 地 | Ⅱ・火・1                                                          | 講 義   | 1   | 20  | 出席・レポート・態度   |
| L1158-3 国際社会論         | 山 邊 | Ⅰ・木・3                                                          | 講 義   | 1   | 30  | 態度 他         |
| L1158-7 学術と社会         | 山 邊 | Ⅱ・木・2                                                          | 講 義   | 1   | 30  | 態度 他         |
| L1159 医師としての社会学       | 宮 道 | Ⅰ・水・5                                                          | 講 義   | 1   | 30  | 出席・レポート・態度 他 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1111-5 | 心と体の哲学 | 小野純一 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[1] 学期 [水・5] 時限 [C]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [ 10 ] 名

○ねらい

この講義では心と体の関係性を哲学的に考えるとは、どのような思考なのか理解することを目的とします。具体的には、現代哲学の根幹をなす古典哲学からライプニッツ、フッサールの創始した現象学を彼らのテキストを例示しながら、重要な箇所を講読し、日本の哲学者たちによる受容を紹介し、補足説明を加えます。その上で、文学、舞台作品、映画、あるいは私たちの日常経験などから具体例を紹介し、具体的にイメージを働かせながら考えます。同時に、哲学的な思考を批判的に学ぶことで、心と体の関係を再考し、哲学の思考法を理解することを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

新田義弘『現象学』講談社、2013年。

○評価の方法

授業での取り組み（40%）、最終課題（60%）

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

レポートの結果について、講評を示し、校正、指導します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定のテキスト内容をあらかじめ読み、意味の不明な哲学の概念を辞書等で調べ、疑問点を記入し、ノートに整理してきてください。（90分）

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理し、疑問点などをコメントとして記入してください。また、テキストを再度読み返してください。（90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                    | 担当者  | 所属 |
|----|-------------------------|------|----|
| 1  | 導入 哲学的な思考とは何か           | 中山純一 | 哲学 |
| 2  | 哲学の原型1——ロゴスとアイデア        | 中山純一 | 哲学 |
| 3  | 哲学の原型2——創造と時間           | 中山純一 | 哲学 |
| 4  | 哲学の原型3——法則、経験、自己        | 中山純一 | 哲学 |
| 5  | 「もの」と「ところ」——一元論、二元論、多元論 | 中山純一 | 哲学 |
| 6  | 「理性」と「他者」——同一性と差異性      | 中山純一 | 哲学 |
| 7  | 「人間」と「世界」——志向性、地平、出来事   | 中山純一 | 哲学 |
| 8  | 「言葉」と「解釈」——「われわれ」からの出発  | 中山純一 | 哲学 |
| 9  | 「生命」「身体」「自然」            | 中山純一 | 哲学 |
| 10 | まとめ・最終課題                | 中山純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者   | 学年   |
|---------|---------|-------|------|
| L1111-6 | 西洋音楽史 I | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期〔火・3〕 時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅱを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半出席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の配布資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目      | 担当者    | 所属      |
|----|-----------|--------|---------|
| 1  | バッハ 1     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 2  | ヘンデル      | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 3  | モーツァルト 1  | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 4  | ベートーヴェン 1 | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 5  | シューベルト    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 6  | メンデルスゾーン  | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 7  | ショパン      | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 8  | ワーグナー     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 9  | ブラームス     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 10 | ブルックナー    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者   | 学年   |
|---------|--------|-------|------|
| L1111-7 | 西洋音楽史Ⅱ | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 15 〕名

○ねらい

本科目はバロック後期から古典派を経て、ロマン派中期に至る西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書き添えていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、自分の言葉で表現してみることによって、他者の思いをくみ取りつつ、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

希望者が履修定員を超える場合には、西洋音楽史Ⅰを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半出席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の配布資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目     | 担当者    | 所属      |
|----|----------|--------|---------|
| 1  | ヴィヴァルディ  | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 2  | バッハ2     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 3  | ハイドン     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 4  | モーツァルト2  | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 5  | ベートーヴェン2 | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 6  | ベルリオーズ   | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 7  | シューマン    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 8  | リスト      | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 9  | ヴェルディ    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 10 | チャイコフスキー | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者   | 学年   |
|---------|--------|-------|------|
| L1111-8 | 西洋音楽史Ⅲ | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔火・2〕時限〔G〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 15 〕名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅳを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の配布資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目      | 担当者    | 所属      |
|----|-----------|--------|---------|
| 1  | ドヴォルザーク   | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 2  | ビゼー       | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 3  | フォーレ      | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 4  | プッチーニ     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 5  | ドビュッシー    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 6  | ラフマニノフ    | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 7  | バルトーク     | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 8  | ストラヴィンスキー | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 9  | ハチャトリアン   | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 10 | シェーンベルク   | 加藤 直 克 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者   | 学年   |
|---------|--------|-------|------|
| L1111-9 | 西洋音楽史Ⅳ | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 15 〕名

○ねらい

本科目は19世紀半ば、ロマン派後期から20世紀前半に掛けての西洋音楽の歴史を扱う。1コマにつき、原則として1名の作曲家を取り上げ、その生涯と作品、活動の背景となる当時の社会とその思想的背景、キリスト教信仰ならびに教会との関係などについて解説する。また代表的な作品については、作曲の経緯や技法など鑑賞に資すると思われる事柄についても解説する。鑑賞する作品については、一曲ごとに感想を書いていただく。さしあたり言葉にはならない印象や感動、連想される風景や作曲者の思いなどを、他者の思いをくみ取りつつ、自分の言葉で表現してみることによって、自分自身を発見することもこの授業の大切なねらいとなる。西洋音楽史ⅣではⅢで扱わなかった同時代の作曲家を扱う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

なし

○評価の方法

レポート提出、出席ならびに授業への参加態度。

○履修上の注意

受講希望者が定員を超える場合は、西洋音楽史Ⅲを併せて受講したい人を優先します。授業が始まってから20分以内は遅刻扱い（半欠席）、それ以降は欠席扱いとします。

○フィードバックの方法

レポートにコメントを返す

○準備学修（予習・復習）

前回の配布資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目      | 担 当 者   | 所 属     |
|----|--------------|---------|---------|
| 1  | グリーク         | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 2  | エルガー         | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 3  | マーラー         | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 4  | シベリウス        | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 5  | ラベル          | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 6  | ロシア国民楽派      | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 7  | リヒャルト・シュトラウス | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 8  | プロコフィエフ      | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 9  | ガーシュイン       | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |
| 10 | ショスタコーヴィチ    | 加 藤 直 克 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名      | 責任者   | 学年   |
|---------|----------|-------|------|
| L1113-1 | 医学・医療と芸術 | 吹田 映子 | 1 学年 |

- 開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

医学「と」芸術、医療「と」芸術。一見かけ離れた分野のあいだには、どのような関係があるのでしょうか。近代の合理主義を通じて別物と認識されるようになったこれら人間の営為は、実際にはいつの時代・どの地域においても分かちがたい関係を結んでいるように思われます。この授業では、ルネサンス期イタリアの絵画における医学的関心を足がかりに、西洋美術史と西洋医学史の接点に分け入ります。舞台は15世紀のイタリアから17世紀のオランダへ。その後は18世紀の日本へと移ります（日蘭医学交流）。本講義を通じて芸術一般および医学史への関心を高めるとともに、医学・医療を文化として、より広い視野で捉える姿勢を身につけましょう。また、医師としての将来の自己像を広い歴史のなかに位置づけることもできるでしょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師になるための自覚

○教科書

資料を配布します。

○参考書

岡田温司・池上英洋『レオナルド・ダ・ヴィンチと受胎告知』平凡社

立川昭二『歴史紀行 死の風景』朝日選書

『医は仁術』展覧会公式ガイドブック

○評価の方法

出席、発言、提出物

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

提出物にコメントをつけて返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                         | 担 当 者   | 所 属 |
|----|---------------------------------|---------|-----|
| 1  | イタリア・ルネサンスにおける受胎告知図の流行と医学（1）    | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 2  | イタリア・ルネサンスにおける受胎告知図の流行と医学（2）    | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 3  | ダ・ヴィンチ《モナ・リザ》の謎                 | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 4  | ダ・ヴィンチの解剖デッサン                   | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 5  | 解剖学とオルガン                        | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 6  | ボス《石の切除手術》（15世紀末）から考える医学の制度化    | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 7  | レンブラントの絵画に見る17世紀オランダの市民社会と医学（1） | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 8  | レンブラントの絵画に見る17世紀オランダの市民社会と医学（2） | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 9  | 杉田玄白『蘭学事始』を読む（1）                | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 10 | 杉田玄白『蘭学事始』を読む（2）                | 吹 田 映 子 | 文 学 |

| 科目番号    | 科目名   | 責任者   | 学年   |
|---------|-------|-------|------|
| L1113-6 | 西洋美術史 | 吹田 映子 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]  
[2] 学期 [水・3] 時限 [I]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

図画工作や美術の授業を通して作る楽しみは経験したものの、美術作品を鑑賞する楽しみについては今一つわからない、という人はいませんか。旧石器時代の洞窟壁画から現代の幅広い「アート」まで、造形作品は歴史的な資料でもあります。学問としての美術史は、その作品がいつ、どこで、誰が、何のために制作したのかを問題にします。いわば一つのナゾとして作品と対峙するのです。美術のジャンルには彫刻や版画など様々ありますが、例えば絵画では、描かれた人物の服装や、背景にある建築物など、見過ごしがちな細部に着目することでナゾを解く鍵を得られることがよくあります。この授業では西洋絵画史において特に謎めいた作品を紹介しますから、頭を捻りながら美術史を学びましょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料を配布します。

○参考書

中野京子『怖い絵』『怖い絵 2』『怖い絵 3』朝日出版社

○評価の方法

出席、発言、提出物

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

提出物にコメントをつけて返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの資料を読み返す（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                 | 担当者   | 所属 |
|----|----------------------|-------|----|
| 1  | 好きな絵（1）              | 吹田 映子 | 文学 |
| 2  | 好きな絵（2）              | 吹田 映子 | 文学 |
| 3  | ナゾの絵 I               | 吹田 映子 | 文学 |
| 4  | 15世紀前半 フランドル 北方ルネサンス | 吹田 映子 | 文学 |
| 5  | ナゾの絵 II              | 吹田 映子 | 文学 |
| 6  | 17世紀 スペイン バロック       | 吹田 映子 | 文学 |
| 7  | ナゾの絵 III             | 吹田 映子 | 文学 |
| 8  | 15世紀後半 イタリア ルネサンス    | 吹田 映子 | 文学 |
| 9  | ナゾの絵 IV              | 吹田 映子 | 文学 |
| 10 | 20世紀 ベルギー シュルレアリスム   | 吹田 映子 | 文学 |

| 科目番号    | 科目名       | 責任者   | 学年   |
|---------|-----------|-------|------|
| L1113-7 | アートセラピー入門 | 吹田 映子 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

医療を広く「癒し」という視点で捉えるなら、そこには様々な営みが含まれます。なかでも芸術はアートセラピー（芸術療法）という実践においてその効果が注目されています。この傾向は20世紀後半に現われ、その重要性は現代社会においてますます高まっているようです。デジタル化や感染症の流行等に伴い、私たちが自らの、そして他者の身体と向き合う機会を急速に失いつつあるとすれば、他者との関わりのなかで心身の解放を目指すアートセラピーの役割は、かつてなく大きいと言えるかもしれません。この授業ではアートセラピーに携わっている方々から具体的なお話を伺うとともに、体験を通してその意義や課題について考えます。取り上げる芸術分野は、演劇、コラージュ、描画、ダンス、音楽などを予定しています。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

なし

○参考書

荒井裕樹『生きていく絵 アートが人を〈癒す〉とき』ちくま文庫

関則雄・三協康生・井上リサ・編集部編『アート×セラピー潮流』フィルムアート社

○評価の方法

出席、発言、提出物

○履修上の注意

「心と体の心理支援法」と一部合同で実施します。

○フィードバックの方法

提出物にコメントをつけて返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの内容を想起する（1時間）、今回の内容を想像しながら心身をリラックスさせる（2時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目        | 担当者                 | 所属          |
|----|-------------|---------------------|-------------|
| 1  | アートセラピーとは何か | 吹田 映子               | 文学          |
| 2  | アートセラピーの歴史  | 吹田 映子               | 文学          |
| 3  | 演劇情動療法      | 吹田 映子<br>他（調整中）     | 文学、外来講師     |
| 4  | コラージュ療法     | 山上 榮子<br>佐々木裕子 吹田映子 | 外来講師、心理学、文学 |
| 5  | 描画療法        | 佐々木 裕子<br>吹田 映子     | 心理学、文学      |
| 6  | ダンス・セラピーの試み | 岩下 徹<br>佐々木裕子 吹田映子  | 外来講師、心理学、文学 |
| 7  | 音楽療法        | 山下 晃 弘<br>吹田 映子     | 外来講師、文学     |
| 8  | ダンス×音楽      | 吹田 映子               | 文学          |
| 9  | 障害者アートをめぐって | 吹田 映子<br>他（調整中）     | 文学、外来講師     |
| 10 | 振り返り        | 吹田 映子               | 文学          |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者  | 学年   |
|---------|---------|------|------|
| L1114-4 | 仏教思想史 I | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

仏教思想史は、古代インドにおけるヴェーダを中心とするバラモン教の成立の状況を解説する。さらに前6世紀以後ガンジス川流域を中心とする都市部の発展により、バラモン教に飽き足らないさまざまな人々の中から、ゴータマ・シッダルタが現れ、その出家に至るまでの歩みをたどる。彼らの共通の課題である業と輪廻の桎梏からいかにして解脱するかという関心から、仏陀の悟りの意味するものを追求する。その悟りを仏陀が他者に伝えようとしたことから、修行者の集団である僧伽の成立した。仏陀の入滅後、教えが集められ(仏典結集) 仏教の根本の教えが成立した。しかし教説の解釈をめぐる教団は分裂し、やがて南伝仏教と大乘仏教に別れていく。講義では大乘仏教のエッセンスを説いた『般若心経』を取り上げ、内容を解説する。最後に日本人の宗教意識と仏教との関係について検討する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

他者への理解

○教科書

資料配付

○参考書

末本文美士『日本思想史』(岩波新書)

末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫)

竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)

竹村牧男『インド仏教の歴史』(講談社学術文庫)

○評価の方法

レポート提出による。

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修 (予習・復習)

配布資料を読み、指示されたテキストの読解を深める (予習90分、復習90分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                | 担当者  | 所属 |
|----|---------------------|------|----|
| 1  | ヴェーダとウパニシャッド        | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 輪廻と業 (1) 六道輪廻、地獄の思想 | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 輪廻と業 (2) 因果応報、三界唯識  | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 釈迦の生涯と成道            | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 仏典結集と僧伽の成立          | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 四諦、十二因縁、八正道、中道      | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 上座部と大衆部、大乘仏教の成立     | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 『般若心経』解説、観世音菩薩      | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 日本人と仏教 (1)          | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | 日本人と仏教 (2)          | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1114-5 | 仏教思想史Ⅱ | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔木・1〕時限〔J〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 20 〕名

○ねらい

仏教思想史は、古代インドにおけるヴェーダを中心とするバラモン教の成立の状況を解説する。さらに前6世紀以後ガンジス川流域を中心とする都市部の発展により、バラモン教に飽き足らないさまざまな人々の中から、ゴータマ・シッダルタが現れ、その出家に至るまでの歩みをたどる。彼らの共通の課題である業と輪廻の桎梏からいかにして解脱するかという関心から、仏陀の悟りの意味するものを追求する。その悟りを仏陀が他者に伝えようとしたことから、修行者の集団である僧伽の成立した。仏陀の入滅後、教えが集められ(仏典結集) 仏教の根本の教えが成立した。しかし教説の解釈をめぐる教団は分裂し、やがて南伝仏教と大乘仏教に別れていく。講義では大乘仏教のエッセンスを説いた『般若心経』を取り上げ、内容を解説する。最後に日本人の宗教意識と仏教との関係について検討する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

末本文美士『日本思想史』(岩波新書)

末本文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ』(新潮文庫)

竹村牧男『入門 哲学としての仏教』(講談社現代新書)

竹村牧男『インド仏教の歴史』(講談社学術文庫)

○評価の方法

毎回のミニレポートと最終レポートによる。

○履修上の注意

特にない。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修 (予習・復習)

配布資料を読み、理解を深める (予習90分、復習90分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目      | 担当者  | 所属 |
|----|-----------|------|----|
| 1  | 中観の哲学 (1) | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 中観の哲学 (2) | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 唯識の哲学 (1) | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 唯識の哲学 (2) | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 華嚴の哲学 (1) | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 華嚴の哲学 (2) | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 密教の哲学 (1) | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 密教の哲学 (2) | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 禅の哲学 (1)  | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | 禅の哲学 (2)  | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名       | 責任者  | 学年   |
|---------|-----------|------|------|
| L1115-1 | キリスト教思想史Ⅰ | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

本科目では、主に旧約聖書の創世記、出エジプト記を中心として、ユダヤ・キリスト教の根底をなす天地創造の神話、ならびに神とイスラエルの民との契約、それに引き続くイスラエル建国までの歴史を見てゆく。これらはギリシャ思想とならんでヨーロッパ思想の根幹をなすものであり、現代の世界を理解する上でも必須の教養といえる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

『創世記』関根正雄訳 岩波文庫、『出エジプト記』関根正雄訳 岩波文庫

○参考書

新共同訳『新旧約聖書』

○評価の方法

レポート提出  
授業参加の態度

○履修上の注意

授業内で伝える

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートを提出し、その感想や疑問に対して、毎回コメントを書いて返却する。

○準備学修（予習・復習）

毎回の授業の準備学習としては、前回の講義内容を読み返す（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                       | 担当者  | 所属   |
|----|----------------------------|------|------|
| 1  | 旧約聖書とはどんな書物か。              | 加藤直克 | 外来講師 |
| 2  | 天地創造から楽園追放まで。アダムとイブ        | 加藤直克 | 外来講師 |
| 3  | ノアの洪水とバベルの塔、シュメルの神話        | 加藤直克 | 外来講師 |
| 4  | アブラハムとイサク、神との契約            | 加藤直克 | 外来講師 |
| 5  | イサクとヤコブ、イスラエルという名          | 加藤直克 | 外来講師 |
| 6  | ヨセフの物語                     | 加藤直克 | 外来講師 |
| 7  | モーセと出エジプト、十戒               | 加藤直克 | 外来講師 |
| 8  | ヨブ記、神義論                    | 加藤直克 | 外来講師 |
| 9  | ダビデのイスラエル建国                | 加藤直克 | 外来講師 |
| 10 | 王国の分裂、北イスラエルと南ユダの滅亡、バビロン捕囚 | 加藤直克 | 外来講師 |

| 科目番号    | 科目名       | 責任者  | 学年   |
|---------|-----------|------|------|
| L1115-2 | キリスト教思想史Ⅱ | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔水・3〕時限〔1〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔15〕名

○ねらい

キリスト教思想史Ⅱでは、遠藤周作の『イエスの生涯』と『キリスト教の誕生』という二つの小説を手がかりに、イエスとその弟子たちの言葉や行いについて理解を深める。同時にその背景となる当時のユダヤの置かれた状況を俯瞰しつつ、どのようにしてキリスト教がローマ帝国の国教となるに至ったかを理解する。さらには三位一体論、この世の終末までを先取りする歴史意識について理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

遠藤周作『イエスの生涯』同『キリストの誕生』角川文庫

○参考書

関根正雄訳『福音書』岩波文庫、新共同訳『旧新約聖書』、小田垣雅也『キリスト教の歴史』講談社学術文庫

○評価の方法

レポートの提出

授業参加の態度

○履修上の注意

教科書は必ず購入して下さい。理解を深めるためにはキリスト教思想史Ⅰを履修していることが望ましい。

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートにコメントを書いて返却する。

○準備学修（予習・復習）

教科書と配布資料を読み理解する（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                  | 担当者  | 所属   |
|----|-----------------------|------|------|
| 1  | エルサレム帰還以後のユダヤ人の歴史     | 加藤直克 | 外来講師 |
| 2  | イエスの誕生とその前後           | 加藤直克 | 外来講師 |
| 3  | バプテスマのヨハネと荒野の試練、山上の垂訓 | 加藤直克 | 外来講師 |
| 4  | イエスの弟子たち、イエスの行いと語り    | 加藤直克 | 外来講師 |
| 5  | 最後の晩餐、ユダの裏切り、イエスの裁判   | 加藤直克 | 外来講師 |
| 6  | イエスの死と復活、昇天と再臨の予言     | 加藤直克 | 外来講師 |
| 7  | 弟子たちの宣教。ペテロとパウロ       | 加藤直克 | 外来講師 |
| 8  | ローマにおけるキリスト教の弾圧と国教化   | 加藤直克 | 外来講師 |
| 9  | 原始キリスト教と異端            | 加藤直克 | 外来講師 |
| 10 | アウグスティヌス、三位一体論、神の国と終末 | 加藤直克 | 外来講師 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1118-9 | 国家とは何か | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 20 〕名

○ねらい

国家という概念は、近代性を特徴づけ、その政治的な言説を基礎づけ、構成し、あるいは呪縛してきた。ブルデューのような社会学的研究は、民主制を謳う近代国家もまた特定の個人や団体に権力と富が集中する構造を生み出し続けたことを明らかにした。グローバル化が進む現在、国家を超えた特定の個人や団体が「新たな帝国」(ハート&ネグリ)として、同じく大衆を搾取する構造を維持し続ける。グローバル化がさらに加速し「国家の消滅」が語られる現在、近代の政治学が構想した国家という概念では、現状も未来も最早語るができない。未来の社会秩序を新たに構想するためには、近代の政治的な言説を構成してきた、そして今なお構成し続ける国家概念の系譜を明らかにする必要がある。この講義は、私たちが自明のものとして前提とする現在の成り立ちを問い、その問い自体を構成する概念を問うことで前進する思考の訓練を近年の国家論における成果を紹介しつつ実践することを目的とする。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

資料配付

○参考書

John A. Hall (ed.) . The State: Critical Concepts, 3 vols. Routledge, 1994.

Michael Hardt and Antonio Negri. Empire. Harvard University Press, 2000.

David L. Swartz. Symbolic Power, Politics, and Intellectuals: The Political Sociology of Pierre Bourdieu. The University of Chicago Press, 2013.

Pierre Bourdieu. On the State: Lectures at the Collège de France 1989-1992. Polity, 2015.

Liav Orgad and Ruud Koopmans. Majorities, Minorities, and the Future of Nationhood. Cambridge University Press, 2023.

○評価の方法

出席を含め、ディスカッションなど授業への参加度とレポート

○履修上の注意

授業内で伝える

○フィードバックの方法

毎回の感想レポートを提出し、その感想や疑問に対して、毎回コメントを書いて返却する。

○準備学修 (予習・復習)

毎回の授業の準備学習としては、前回の講義内容を読み返す (予習90分、復習90分)。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目     | 担当者  | 所属 |
|----|----------|------|----|
| 1  | 政治概念の分析  | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 国家概念の分析  | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 国家とその二重性 | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 権威と立法者   | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 一元的な国家   | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 多元生の排除   | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 多元主義の再構築 | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 相対的自律性   | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 国家の脱自然化  | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | 国家のこれから  | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者  | 学年   |
|---------|---------|------|------|
| L1119-1 | はじめての哲学 | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・1〕 時限〔B〕

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

この授業では、ことばの意味と心、人間、状況、世界との関わりについて考えます。知るとはいかなる事態なのか、言葉の意味のはたらきは人に何をもたらすのか、意志や理由、行為、観察によらない知識、自己と他者とのかかわり、時間、同一性と変化、価値とは何かといった主題を論じ、また議論し、哲学的に思考することを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料配布。

○参考書

バートランド・ラッセル『哲学入門』筑摩書房、2005年。

内山勝利、中川純男他編集『哲学の歴史』全十二巻・別巻、中公公論新社、2007-2008年。

戸田山和久『哲学入門』筑摩書店、2014年。

荻野弘之、山本芳久他『新しく学ぶ西洋哲学史』ミネルヴァ書房、2022年。

○評価の方法

授業中の読解、議論、ミニレポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料を読み、参考書の理解を深める（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目     | 担当者  | 所属 |
|----|----------|------|----|
| 1  | 不条理      | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 懐疑       | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 二元論      | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | アイデンティティ | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 自由意志     | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 道徳       | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 善        | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 虚無       | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 過去・現在・未来 | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | まとめ      | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名   | 責任者  | 学年   |
|---------|-------|------|------|
| L1119-2 | 哲学の入門 | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔水・1〕時限〔H〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

この講義では哲学の主要なテーマのひとつである「自由」について考察します。哲学はさまざまな概念を創出してきました。例えば、人権、人格、平等、尊厳、公正（社会的正義）などです。これらの概念を創出することなしに、人類社会の発展も改善もありませんでした。これらの概念を構築し維持することは、私たちの生命の安全を確保し、人間的な生を維持し、社会をより良く保つことを実現してくれます。ところが、こういった概念は常に変容、崩壊、悪化の契機にさらされています。こういった概念への無理解だけでなく、悪用も横行します。私たちは日常的に、人を暴力に駆り立てる言論を経験しています。私たちはどこまで許されどこから許されないのか、明確に線を引くことができるのでしょうか。この講義では、特に「言論・表現の自由」に着目し、思想史的な事例から現代の問題まで取り上げ、「自由」をめぐる論じ、思考していきます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

配布資料

○参考書

ジョン・スチュアート・ミル『自由論』関口正司訳、岩波書店、2020年／斉藤悦則訳、光文社、2012年。

○評価の方法

授業での取り組み（40%）、最終課題（60%）

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ミルの『自由論』について配布資料を参考に読解し理解を深める（予習90分、復習90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目           | 担当者  | 所属 |
|----|----------------|------|----|
| 1  | 自由とは何か         | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 現在の「言論の自由」をめぐる | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 自由論の起源         | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 真理と尊重          | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 冒涇と寛大          | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | ヘイトスピーチ        | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 性犯罪            | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 精神的危害と身体的危害    | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | ネット社会の問題       | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | まとめ            | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名           | 責任者  | 学年   |
|---------|---------------|------|------|
| L1119-3 | 言語文化入門Ⅰ（アラビア） | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔1〕学期〔火・3〕時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 20 〕名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

なし（プリントを配布）

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料のテキストを読み、練習問題を解く（予習90分、復習90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                   | 担当者  | 所属 |
|----|------------------------|------|----|
| 1  | アラビア文化の起源／文字・名詞文       | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | アラビア語の特徴／疑問文・名詞の性      | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | アラビア文化とイスラーム／非限定・形容詞の性 | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | アラビア文化とペルシア／指示代名詞      | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | アラビア文化とユダヤ／冠詞とワスラ記号    | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | アラビア文化とヨーロッパ／ニスバ形容詞    | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | アラビア文化とインド／完了形と格       | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | アラビア文化と中国／所有表現と前置詞     | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | アラビア文化と東南アジア／人称、副詞     | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | アラビア文化とアフリカ／未完了        | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名           | 責任者  | 学年   |
|---------|---------------|------|------|
| L1119-4 | 言語文化入門Ⅱ（アラビア） | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

この授業は各回ともアラビア語入門として語学に加え、アラビア語文化圏の紹介を行います。アラビア語は世界で3番目に多くの地域で話される国連の公用語です。ロシアと同じくらいの面積を占める西アジアから北アフリカで話されます。文字記録は1600年前からあり、人類に学術用語を提供した数少ない古典語の一つ（他にラテン語、サンスクリット、中国語）として、現在もさらに重要性を増す国際的共通語です。アラビア語が文化形成に直接影響した地域はインドや中国、アフリカ、ヨーロッパなど、ユーラシア大陸全域とアフリカ大陸の北半分、東南アジア諸島に及びます。例えば17世紀までヨーロッパ医学の教科書だった『医学典範』原典はアラビア語ですし、哲学や数学、自然科学の専門用語もアラビア起源が多くあります。この授業ではアラビア文字を覚え、アラビア語会話のごく初歩を学び、アラビア語文化圏の言語、思想、芸術、音楽、建築、食文化などに触れることを目指します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

教科書：なし（プリントを配布）

○参考書

新妻仁一『アラビア語文法ハンドブック』白水社、2009年

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

アラビア語Iの履修者か、アラビア文字修得者を対象にします。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

配布資料のテキストを読み、練習問題を解く（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目        | 担当者  | 所属 |
|----|-------------|------|----|
| 1  | 思想／非定型複数、否定 | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 哲学／接続法      | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 科学／比較級・最上級  | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 書道／動詞       | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 音楽／義務、許可    | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 都市／動詞の用法    | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 建築／命令       | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 映画／派生形動詞、色  | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 文学／数詞（1）    | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | 料理／数詞（2）    | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号    | 科目名        | 責任者    | 学年   |
|---------|------------|--------|------|
| L1122-3 | 対人交流の臨床心理学 | 佐々木 裕子 | 1 学年 |

- 開講時期 [2] 学期 [火・1] 時限 [F]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

臨床心理学は、個人あるいは集団の心理的不適応状態について、科学的に理解・把握し、より適応的で自己実現的な状態へと援助するための人間理解と心理的支援法を実践的かつ理論的に探究する心理学の一分野です。本授業では、支援の対象となる「心理的不適応（心の問題）を抱える個人（集団）」を対人関係の視点から理解した上で、代表的な心理療法理論と技法について、事例等を用いて実践的に学習します。

- 1) 臨床心理学における人間理解の基本的考え方を説明できる。
- 2) 心理的不適応（心の問題）事例の臨床的理解の仕方がわかる。
- 3) 心理的支援（心理療法）の基本的プロセスと方法が説明できる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。予習として、「徹底図解 臨床心理学」青木紀久代編著 新星出版社を使用。

○参考書

トレーシー・D・イールズ 著・津川律子・岩壁茂監訳「心理療法におけるケース・フォーミュレーションの確かな臨床判断に基づいた治療計画の基本ガイド」福村出版

○評価の方法

授業課題への取り組みと貢献度（出席状況）、授業レポートの記入内容によって評価する。

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業レポートにコメントを付けてフィードバックする。

○準備学修（予習・復習）

予習（60分）：指定された教科書の該当ページを読んで、考えたこと疑問に思ったことをまとめてくる。

復習（120分）：本日の学習課題について解答を作成する。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                         | 担 当 者           | 所 属      |
|----|---------------------------------|-----------------|----------|
| 1  | オリエンテーション 臨床心理学の定義と専門資格         | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 2  | 対人交流に基づいた心理療法「来談者中心療法」          | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 3  | 「来談者中心療法」事例検討                   | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 4  | 「シナリオ・カウンセリング」「動機付け面接」実習        | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 5  | 対人交流に基づいた心理療法「精神分析的心理療法」        | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 6  | 「精神分析的事例理解」による事例検討（ゲーム・ネット依存事例） | 佐々木 裕子<br>三宅 基治 | 心理学 外来講師 |
| 7  | 行動と認知的変容技法による心理的支援「認知行動療法」      | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 8  | 家族コミュニケーション理解と家族への心理的支援「家族療法」   | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 9  | 「家族療法」事例検討                      | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |
| 10 | 心理的支援法の全体像とその他の心理療法／授業の振り返り     | 佐々木 裕子          | 心 理 学    |

| 科目番号    | 科目名        | 責任者    | 学年   |
|---------|------------|--------|------|
| L1122-4 | 母子関係論と人格発達 | 佐々木 裕子 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期〔火・3〕 時限〔A〕  
[2] 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

人の心の成長・発達、人格形成や心の病理にまつわる様々な重要概念について、様々な物語を題材に学習していきます。心はいつ、どのように形成されるのか、人格の成長・発達には何が重要だと考えられているのか、また、多くの人が引き付けられる物語には、どのような心理学メッセージが隠されているのかを読み解いていきます。本授業を通して、自らの分離・個性化の過程を振り返り、一人の人間として自律・自立していくこと、そして、人と人との間に存在する“個”としての自分のあり方（ナラティブ）を創り出していくことを目指します。

1) 物語を母と子の結びと対象喪失のプロセスから理解する考え方を獲得する

2) 人格理論に関する主要な理論や重要概念を説明できる

3) Narrative approach による人間理解・自己理解ができる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

河合隼雄「昔話と日本人の心」岩波書店／北山修「見るなの禁止」岩崎学術出版社／北山修「最後の授業－心をみる人たちに」みすず書房／森省二「アンデルセン童話の深層」創元社／桐生操「本当は恐ろしいグリム童話」

○評価の方法

毎授業課せられるディスカッション・レポート（60%）、第10回で実施する「授業内作成最終レポート」（40%）によって評価する。

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

ディスカッション・レポートの内容を翌週の授業内でフィードバックする。

○準備学修（予習・復習）

予習（60分）：参考書で挙げたような書籍（神話や昔話のメタファに関するもの）を何かしら選んで読む。

復習（120分）：授業で取り上げたディスカッション・テーマから連想される物語作品（小説、アニメ、テレビドラマ、芸術作品など何でも可）を見つけ、どのような解釈ができるか考える。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                            | 担当者    | 所属  |
|----|---------------------------------|--------|-----|
| 1  | オリエンテーション／様々な人格発達論              | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 2  | こころの世界の始まり：母子一体感と万能感と移行対象       | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 3  | 三者関係への広がり：エディプス・コンプレックス         | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 4  | 幼児のファンタジーの力：イマジナリー・コンパニオン       | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 5  | 大人社会への仲間入り：イニシエーション             | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 6  | 親友関係の大切さ：阿蘭世コンプレックスからの解放とチャムシップ | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 7  | いつも誰かとつながっていたい幻想：幼児的万能感と脱錯覚     | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 8  | 自分らしくあるための自律：自律と自立              | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 9  | 自我の健康な力：自我機能と防衛機制               | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 10 | 授業のまとめ 授業内作成最終レポート              | 佐々木 裕子 | 心理学 |

| 科目番号    | 科目名        | 責任者   | 学年   |
|---------|------------|-------|------|
| L1122-5 | 事例から学ぶ心理臨床 | 佐々木裕子 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [木・1] 時限 [J]  
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

本授業は、カウンセリング（心理臨床実践）において「心理的不適応（心の問題）」とは、どのようなものだと考えられているのか、また、心理臨床実践ではどのようなことが行われているのかについて、事例検討ディスカッションを通して理解することを目的とします。本授業により、一般に耳にする不登校や摂食障害、パニック障害やうつ病、発達障害等について、臨床心理学的視点から理解できるようになることで、将来必要となる医学的視点による理解に統合していけることを目指します。

1) 心理的不適応（心の問題）事例の臨床心理学的理解の仕方がわかる

2) 心理臨床における心理的支援の基本的考え方を説明できる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫『心とかかわる臨床心理』ナカニシヤ出版

その他、必要に応じて資料を配布

○参考書

授業内で提示

○評価の方法

授業課題への取り組みと貢献度、毎回の授業で課せられる授業レポートの記入内容によって評価します。

○履修上の注意

事例検討ディスカッション中心の授業です。積極的にディスカッションに参加してください。

○フィードバックの方法

授業レポートにコメントを付して返却します。

○準備学修（予習・復習）

○予習60分：教科書の該当ページを読んで、考えたこと疑問に思ったことをまとめる。

○復習120分：事例理解のための発展学習課題に取り組み、次回の授業レポートにて報告する。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                 | 担 当 者 | 所 属   |
|----|-------------------------|-------|-------|
| 1  | オリエンテーション／こころの問題（不適応）とは | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 2  | 情緒的問題による不適応行動事例         | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 3  | 情緒的問題が身体症状化した事例         | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 4  | 情緒的問題による不登校事例           | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 5  | 発達の遅れによる適応の問題事例         | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 6  | 発達の問題と養育の問題が併存する事例      | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 7  | 発達の問題の種類により症状に違いがある事例   | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 8  | 基底不安による不適応事例            | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 9  | 摂食障害事例                  | 佐々木裕子 | 心 理 学 |
| 10 | 人格的問題による難治例             | 佐々木裕子 | 心 理 学 |

| 科目番号    | 科目名           | 責任者    | 学年   |
|---------|---------------|--------|------|
| L1123-3 | 自己理解の心理アセスメント | 佐々木 裕子 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [1]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [20 (グループ・ワークを実施するため1名の場合は開講しない)] 名

○ねらい

心理的支援では、対象者を理解し、どのような心理支援を提供していくかについて検討する作業として心理アセスメントを行います。本授業では、この心理アセスメントに関する理論と考え方を理解し、アセスメントの一技法として用いられる心理検査法について実習を通して体験的に理解します。さらに、心理検査法とは別の様々な自己理解技法やワークを通して、受講生自らが自己理解を深めていくことを目指します。

1) 心理アセスメントに関する理論と考え方について説明できる。

2) 心理アセスメント技法 (面接法、観察法、心理検査法等) を用いた対象者理解の仕方を理解する。

3) 自己理解技法やワークを通して心理アセスメントとして行われる自己理解を体験する。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

自己評価と研鑽

○教科書

必要に応じてプリントを配布する。

○参考書

氏原寛他編「心理査定実践ハンドブック」創元社

津川律子「これからの現場で役立つ臨床心理検査 解説編」金子書房

○評価の方法

授業への貢献度、毎回の授業レポートの内容により評価します。

○履修上の注意

心理アセスメントの方法を学ぶだけでなく、自己理解・自己分析に取り組むことを了解した上で受講してください。

○フィードバックの方法

授業レポートにコメントを付して返却します。

○準備学修 (予習・復習)

予習 (60分): 授業で取り上げるアセスメント技法について調べ、疑問をまとめてくる。

復習 (120分): 授業課題テーマについて、自己理解・自己分析をまとめてくる。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                                                             | 担当者    | 所属  |
|----|----------------------------------------------------------------------------------|--------|-----|
| 1  | オリエンテーション／心理学と性格占いの違い                                                            | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 2  | 自己理解ワークによる自己理解実習 1 / 心理尺度と性格検査の違い                                                | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 3  | 心理検査とは (心的機能の考え方と知能観)                                                            | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 4  | Intelligence Test実習 1<br>(The Wechsler Adult Intelligence Scale: WAIS実習)         | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 5  | Intelligence Test実習 2<br>(The Wechsler Adult Intelligence Scale: WAIS実習)         | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 6  | Self-reported Inventory実習<br>(人格理論に基づいた性格検査: TEG 3 / 基づかない質問紙検査: CMI)            | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 7  | Performance test実習<br>(単純作業による人格理解検査: 内田クレペリン検査)                                 | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 8  | Performance-based personality Assessment実習<br>(欲求不満場面での対処方略: PFスタディ / 自己概念: SCT) | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 9  | Drawing Test実習 (治療的関わりのある描画法: 風景構成法)                                             | 佐々木 裕子 | 心理学 |
| 10 | 自己理解ワークによる自己理解実習 2 / 自己理解レポート                                                    | 佐々木 裕子 | 心理学 |

| 科目番号      | 科目名       | 責任者    | 学年    |
|-----------|-----------|--------|-------|
| L 1 1 2 4 | 心と体の心理支援法 | 佐々木 裕子 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]

[1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義・実習

○履修定員 [ 約15名（グループ・ワークを実施するため1名の場合は開講しない） ] 名

○ねらい

カウンセリングや心理療法といわれる心理学的支援法は、単に言葉による面接技法ではなく、心と体のつながりにも焦点を当てた様々な自己表現技法があります。本授業では、こうした心と体のつながりに注目した自己表現による心理支援法について、理論講義と実習を組み合わせ学習していきます。本授業を通して、心と体で感じたことを様々な形で自己表現することの意味を理解するとともに、受講生自らがリラックス感や自己成長感を体験し、自己の内的体験過程に開かれた状態を深めていけることを目指します。

1) 心と体のつながりを意識した心理支援法の理論や重要概念を説明できる

2) 様々な自己表現法による心理支援法の基礎技法を習得する

3) Narrative approach による人間理解・自己理解ができる

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己評価と研鑽

○教科書

必要に応じて資料を配布する。

○参考書

必要に応じて授業の中で提示する。

○評価の方法

出席、授業課題への取り組み、リフレクション・シートの記入内容によって評価する。

○履修上の注意

「アートセラピー入門」の授業と一部合同で実施するので、そのことを了解の上で受講すること。

○フィードバックの方法

リフレクション・シートにコメントをつけて返す。

○準備学修（予習・復習）

予習（90分）：各回の心理的支援技法について調べてくる。

復習（90分）：体験した支援法が地域医療における人々の心身の健康増進にどのように役立てられるか考える。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                     | 担 当 者              | 所 属         |
|----|-----------------------------|--------------------|-------------|
| 1  | オリエンテーション+グループ・ワーク導入技法      | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 2  | 体の動きの再発見から心理的自律を目指した心理支援技法  | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 3  | 心身のリラックス状態の習得を目指した心理支援技法    | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 4  | ビジュアル作品の作成を通じた自己表現による心理支援技法 | 山上榮子<br>佐々木裕子 吹田映子 | 外来講師 心理学 文学 |
| 5  | 協働作業を通じた自由表現（描画療法）による心理支援技法 | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 6  | 身体表現活動による心理支援技法             | 岩下 徹<br>佐々木裕子 吹田映子 | 外来講師 心理学 文学 |
| 7  | 箱庭による心的世界の造形表現による心理支援技法     | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 8  | 自己の主張性に焦点づけた自己表現ワーク 1       | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 9  | 感情表現に焦点づけた自己表現ワーク 2         | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |
| 10 | 授業の振り返り                     | 佐々木 裕子             | 心 理 学       |

| 科目番号      | 科目名   | 責任者   | 学年    |
|-----------|-------|-------|-------|
| L 1 1 3 5 | 文学的探索 | 吹田 映子 | 1 学 年 |

- 開講時期    { 1 } 学期 { 水・1 } 時限 { B }  
                   { 1 } 学期 { 水・5 } 時限 { C }  
                   { 2 } 学期 { 木・1 } 時限 { J }

○授業形式    講義・演習

○履修定員    [ 10 ] 名

○ねらい

20世紀後半のフランスの小説家アンドレ・ドテル（André Dhôtel, 1900-1991）の作品を読みます。ドテルは日本では殆ど無名ですが、自国でも長い間一部の熱心な読者に愛読されるだけで、批評家には無視あるいは困惑されていました（「何一つ理解できない」「何だこれは?何なんだこれは?頭を抱えてしまう」等々…）。それはなんとというか、読みながら啞然とする荒唐無稽な物語で、近代の小説様式のリアリズムからは内容も語り方も常軌を逸したありえない代物に見えます。主な舞台は同時代のフランス北東部、ベルギーと国境を接する丘陵と森のアルデンヌ地方で、たとえば気まぐれな少年と彼を魔法使いと信じ込むおばさんが嘘のような偶然の連続する宝探しの冒険でアメリカまで出かけたり、「花は超自然的存在です」と言い張る哲学者が花の见ている夢について延々ほら話を展開したり、木に変身した弟が地球の裏側をさまよう行方不明の姉を奇想天外な仕方で発見したりします。近代以前のおとぎ話、魔法物語、さらに遡って神話伝説も思わせるのですが、『ハリー・ポッター』あるいは『ゲド戦記』やRPGゲームのようないわゆるファンタジーともまた違ってきます。近年研究もされるようになったとはいえ、いまだその謎が解かれてはいない不思議な作品群の前に、その一面なりと読解を試みたいと思います。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

日本語訳のコピーを配布します。

○参考書

図書館等で入手可能な翻訳をあげておきます。

アンドレ・ドテル「見えない村」（短篇、『現代フランス幻想小説』所収）、白水社、1970年

同『荒野の太陽』（長篇）天沢退二郎訳、福音館書店、1988年

同『夜明けの汽車 その他の物語』（短篇集）武藤剛史訳、舷灯社、2017年

同『魔法の森 その他の話』（児童短篇集）武藤剛史訳、舷灯社、2019年

○評価の方法

授業時の読解への参加、期末レポート

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

期末レポートにはコメントをお返しします。

○準備学修（予習・復習）

（予習）配布された作品を読んでくる。（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目              | 担 当 者  | 所 属     |
|----|----------------------|--------|---------|
| 1  | 「大使さま」（短篇）           | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 2  | 続き                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 3  | 「ありふれた出来事」（短篇）       | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 4  | 続き                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 5  | 「咲く花の大いなる夢」（対話篇）     | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 6  | 続き                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 7  | カミュとドテル、不条理と奇蹟（エッセイ） | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 8  | 続き                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 9  | 「荒れ野への眼差し」（短篇）       | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 10 | 続き                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |

| 科目番号      | 科目名      | 責任者   | 学年    |
|-----------|----------|-------|-------|
| L 1 1 3 6 | ジェンダー文化論 | 吹田 映子 | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期〔水・1〕 時限〔B〕  
[2] 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

性にも多様性があることを認め、性的マイノリティが生きやすい社会の実現を目指そうという風潮が高まっています。LGBTQやジェンダー平等といった言葉に触れる機会も多いのではないのでしょうか。とはいえ、私たちの日常を振り返ってみると、男/女という区別や序列は相変わらず強固に存在し、あたかもそれが絶対的なものであるかのように意識させられる機会は少なくありません。この授業では、皆さんが日頃親しんでいるであろう文化事象を取り上げ、その中に織り込まれた性差にまつわるメッセージを読み解きます。「女はこうあるべき」「男とはこういうものである」（ここにも非対象性がある）といった固定観念（ジェンダー規範）は過去の産物ではなく、私たちは今なおそうしたメッセージに晒され続けているのです。この授業を通して、文化事象を批判的に分析する視座と高度な読解力を身につけましょう。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己決定の尊重と個人情報保護

○教科書

資料を配布します。

○参考書

加藤秀一『ジェンダー入門』朝日新聞社

若桑みどり『お姫様とジェンダー』ちくま新書

平野卿子『女ことばってなんなのかしら？』河出新書

○評価の方法

出席、発言、提出物

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

提出物にコメントをつけて返す

○準備学修（予習・復習）

前回までの内容を整理し、疑問点を明確にしておく。（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                                         | 担 当 者 | 所 属 |
|----|-------------------------------------------------|-------|-----|
| 1  | ジェンダーとは何か                                       | 吹田 映子 | 文 学 |
| 2  | 主人公はどんな人？<br>—「白雪姫」「シンデレラ」に描かれた女性像（1）           | 吹田 映子 | 文 学 |
| 3  | 敵はなぜいつも意地悪な継母なのか<br>—「白雪姫」「シンデレラ」に描かれた女性像（2）    | 吹田 映子 | 文 学 |
| 4  | ディズニー・プリンセスの変遷とフェミニズムの歴史<br>—家父長制的ハッピー・エンドからの脱却 | 吹田 映子 | 文 学 |
| 5  | 女に対する過剰な期待<br>—「アナと雪の女王」がうっとうしいわけ               | 吹田 映子 | 文 学 |
| 6  | 身近なものを分析してみよう                                   | 吹田 映子 | 文 学 |
| 7  | ディズニーは男性像を描いたことがあるか                             | 吹田 映子 | 文 学 |
| 8  | まなざしの非対称性                                       | 吹田 映子 | 文 学 |
| 9  | 男装はOKで女装はNG？ —「ムーラン」から考える                       | 吹田 映子 | 文 学 |
| 10 | 女性像は金の生る木か —資本主義とジェンダー                          | 吹田 映子 | 文 学 |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者   | 学年   |
|---------|---------|-------|------|
| L1140-1 | 医学古典語 I | 小野 純一 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多いが、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多い。医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とをシステムティックに学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかり学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

医学古典語 I の履修希望者は医学古典語 II も併せて履修することを勧めます。I だけではその知識は断片的で記憶に定着せず、応用力まではとても望めないからです。なお医学古典語 II だけを履修することはできません。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

予習として、毎回の単語テストにむけて各自で調べ暗記すること（90分）。

復習として、単語テストで間違えた語彙の他に、授業で新たに学んだ語彙を確認すること（90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目           | 担当者   | 所属  |
|----|----------------|-------|-----|
| 1  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 2  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 3  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 4  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 5  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 6  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 7  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 8  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 9  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |
| 10 | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野 純一 | 哲 学 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1140-2 | 医学古典語Ⅱ | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔水・3〕時限〔1〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔20〕名

○ねらい

医学用語のうち解剖用語はラテン語語源のものが多く、一般的な医学用語、すなわち臨床や医学論文で用いられる用語はギリシャ語語源のものが多く、医学古典語は現在の医学における国際語である英語での臓器、身体部位、疾患等について、ギリシャ語およびラテン語由来の表現の構造と意味とをシステムティックに学ぶことを目標とする。具体的には、接頭辞、語根、接尾辞という構成要素を学ぶが、これは漢字における偏と旁を知ることによって語の成り立ちを推測しつつ、効果的に記憶していく方法に類似しているといえる。代表的な接頭辞、語根を学ぶことにより、医学のみならず、一般の英語語彙も飛躍的に増やすことができることを実感していただきたい。また、同時に医学用語の発音とアクセントをしっかりと学ぶことで一般的な英語の綴りと発音についてもあらためて学ぶことができる。医学古典語ⅡはⅠに引き続いて、より多くの臨床用語、解剖用語を学ぶとともに、基本的な造語要素についての知識の定着を目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

G.L.Smith/P.E.Davis『プログラム学習による医学用語の学び方 第2版』裏田武夫訳、医学書院、資料配付

○参考書

適宜プリントを配布する。

○評価の方法

各回でミニテストを行い、その総合点で評価します。

○履修上の注意

医学古典語Ⅰを履修していることが望ましい。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

予習として、毎回の単語テストにむけて各自で調べ暗記すること（90分）。

復習として、単語テストで間違えた語彙の他に、授業で新たに学んだ語彙を確認すること（90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目           | 担当者  | 所属 |
|----|----------------|------|----|
| 1  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 2  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 3  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 4  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 5  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 6  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 7  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 8  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 9  | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |
| 10 | 医学用語の語義と造語法、発音 | 小野純一 | 哲学 |

| 科目番号      | 科目名   | 責任者   | 学年   |
|-----------|-------|-------|------|
| L 1 1 5 0 | 高齢社会論 | 青山 泰子 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・5〕時限〔C〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

高齢化が進む社会で何が起きているのか。この講義では、介護問題に加え、高齢者を対象とした施設やサービス、住まい方、看取りの問題など、医師として必要な高齢社会の基礎知識を得る。また介護食や高齢者疑似体験、自助具の操作などの体験実習を通して、高齢者との接し方や配慮すべきポイントを自らの経験の中で学ぶ。

高齢化が進む地域社会におけるリーダーには、住民の生活の実態に基づき、多職種と連携しながら、保健・医療・福祉をトータルでとらえる力が求められる。超高齢社会に医師としてかかわる学生たちに、今必要とされる知識と技術を吸収して、将来リーダーシップを発揮してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師になるための自覚

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

自治医科大学監修, 地域医療テキスト, 医学書院, 2009.

令和5年版 高齢社会白書.

○評価の方法

授業中の課題、体験レポート、受講態度により総合的に評価する。

メディア授業を部分的に導入する。

○履修上の注意

体験実習は、やや変則的な日程で実施される場合があるので、その都度指示をよく確認すること。

○フィードバックの方法

授業全体を通じて、学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

一部メディア授業を併用して、準備学修を行う。（予習60分、復習120分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                    | 担当者   | 所属  |
|----|-------------------------|-------|-----|
| 1  | 超高齢社会の変動と現状             | 青山 泰子 | 社会学 |
| 2  | 高齢者と介護問題—介護食体験—         | 青山 泰子 | 社会学 |
| 3  | 高齢者の生活と福祉施設—認知症を考える—    | 青山 泰子 | 社会学 |
| 4  | 福祉サービスの種類と特性—自助具に触れる—   | 青山 泰子 | 社会学 |
| 5  | 高齢期の住まい方—フレイルに対応する—     | 青山 泰子 | 社会学 |
| 6  | 看取りを考える                 | 青山 泰子 | 社会学 |
| 7  | 高齢者疑似体験（1）              | 青山 泰子 | 社会学 |
| 8  | 高齢者疑似体験（2）              | 青山 泰子 | 社会学 |
| 9  | 高齢社会を支える仕組み—地域包括ケアを考える— | 青山 泰子 | 社会学 |
| 10 | 講義と体験実習の振り返り、補足と総括      | 青山 泰子 | 社会学 |

| 科目番号      | 科目名     | 責任者   | 学年    |
|-----------|---------|-------|-------|
| L 1 1 5 1 | 社会を診る方法 | 青山 泰子 | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

世の中には、さまざまな情報が溢れていて、私たちは日常的にそれを取捨選択して生活している。正当な調査手続きを踏んだ信頼性の高い情報もあるが、中にはかなり怪しいものもある。この講義は、溢れる情報に疑いの目を持ち、多角的な観点から社会を診断する目を養う。

前半の授業では、さまざまな情報の基になる社会調査の基礎を学びつつ、思い込みを捨て、因果関係を考えるトレーニングを行う。後半では、実際に起きた事件、社会現象、歴史上の出来事を素材として、報道のされ方、映像が持つ力、情報が我々に与える影響力の考察を通して、的確な状況判断に基づいて行動する力を養う。

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

他者への理解

○教科書

特に指定はせず、毎回資料を配布する。

○参考書

「情報社会に生きる」医と知の航海, 永井良三監修, 自治医大総合教育編, 西村書店, 2016.

新・社会調査へのアプローチ: 論理と方法, 大谷信介 他 編, ミネルヴァ書房, 2013.

メディアは私たちを守るか?, 木村朗編著, 凱風社, 2007.

○評価の方法

授業中の課題の合計、受講態度により総合的に評価する。

メディア授業を部分的に導入する。

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

提出課題に対して、授業で学生に講評する。

○準備学修 (予習・復習)

一部メディア授業を併用して、準備学修を行う。(予習60分、復習120分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目         | 担 当 者 | 所 属   |
|----|-----------------|-------|-------|
| 1  | 社会を診る 一情報の取捨選択一 | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 2  | 思い込みを捨てる        | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 3  | 因果関係を考える        | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 4  | 社会調査の基礎 一種類と方法一 | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 5  | 量的質的データの特質と扱い方  | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 6  | 報道のされ方を考える      | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 7  | 社会的ネットワークと対人関係  | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 8  | 映像が持つ力          | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 9  | 人間の営みを診る・伝える    | 青山 泰子 | 社 会 学 |
| 10 | データを扱う者の責務と心構え  | 青山 泰子 | 社 会 学 |

| 科目番号      | 科目名   | 責任者     | 学年    |
|-----------|-------|---------|-------|
| L 1 1 5 3 | 医療人類学 | 田 中 大 介 | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]  
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

医療人類学とは文化人類学における下位領域の一つであり、疾病や健康に関する社会－文化的側面を扱うものとして位置づけられる。一方で医療人類学の研究対象は極めて多岐にわたり、たとえば各地の社会における民間療法的な実践から最先端の医療テクノロジーをめぐる動向に至るまで射程に含むことに加えて、「病い」の概念や医療の制度的変遷など広汎な問題群に関心が向けられている。これらの学術的傾向を踏まえて、この授業ではまず医療人類学の統一的な輪郭を象る基礎知識を学び、さらに現代の医療をめぐる個別の問題をケース・スタディとして議論しながら、特に今後の地域医療にとって必要不可欠とも言える人類学的視座の獲得を目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。質疑応答・ディスカッション・課題・レポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

毎回の授業で課題を実施し、その内容を次回の授業中に講評することを通じて知見を共有する。

○準備学修（予習・復習）

次回授業の内容として予定されている題材に関して文献・論文・報道その他の多面的な情報収集を行い、合わせて授業で論じられた議論の内容を振り返りながら最新の関連動向を精査する（予習90分・復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目         | 担 当 者   | 所 属       |
|----|-----------------|---------|-----------|
| 1  | 医療とケアの概念        | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 2  | 医療とコミュニケーション（1） | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 3  | 医療とコミュニケーション（2） | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 4  | 医療とコミュニケーション（3） | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 5  | ライフコースの視座       | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 6  | 健康と病い（1）        | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 7  | 健康と病い（2）        | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 8  | 医師と患者の関係性（1）    | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 9  | 医師と患者の関係性（2）    | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 10 | 医療と社会保障         | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |

| 科目番号      | 科目名     | 責任者     | 学年    |
|-----------|---------|---------|-------|
| L 1 1 5 4 | 異文化理解入門 | 田 中 大 介 | 1 学 年 |

- 開講時期
- 〔1〕 学期〔火・3〕 時限〔A〕
  - 〔1〕 学期〔水・1〕 時限〔B〕
  - 〔1〕 学期〔水・5〕 時限〔C〕
  - 〔2〕 学期〔火・1〕 時限〔F〕
  - 〔2〕 学期〔火・2〕 時限〔G〕
  - 〔2〕 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 〔 10 〕 名

○ねらい

異文化理解は如何にして可能か、その基本的な見方を考えるのが本講義の目的である。また、本講義は「医療人類学」「文化人類学」「社会学」などへの入門講義という意味も持つ。講義は「文化」にはどのような定義がなされているのかという枠組みづくりから始め、異文化の事例（アフリカ、アラブ、アジア、北米先住民等）を使いながら、「文化」について多様なものの見方の基礎を学んでいく。その過程で、学生自身が「文化」についてそれぞれの答えを出していくこと、さらには異文化の理解を妨げる「自文化」の存在とその影響力に目を向けて自分の所属する「文化」を相対的に捉えることを目指す。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

渥美一弥『「共感」へのアプローチ:文化人類学への第一歩』（春風社）

○参考書

特になし。必要のある場合は、別途指示する。

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

C（1学期・水曜日・5時限）のみ田中が担当し、その他の時間割は渥美が担当する予定である。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

授業に関連する内容について独自に資料を探し、理解に努める（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                    | 担 当 者       | 所 属                    |
|----|----------------------------|-------------|------------------------|
| 1  | 「文化」の定義                    | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 2  | 「文化」と言語の関係                 | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 3  | ジェンダーと「文化」                 | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 4  | 婚姻と「文化」                    | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 5  | 通過儀礼について                   | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 6  | 「文化」と「自然」「環境」について          | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 7  | 「文化」とシンボル                  | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 8  | 「文化」の機能主義的理解と構造主義的理解       | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 9  | 他者を「シンボル化」・「記号化」とはどのようなことか | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |
| 10 | 「文化」と病・死について               | 渥 美 一 大 弥 介 | 外 来 講 師 学<br>文 化 人 類 学 |

| 科目番号      | 科目名   | 責任者     | 学年    |
|-----------|-------|---------|-------|
| L 1 1 5 5 | 社会学概論 | 田 中 大 介 | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 10 ] 名

○ねらい

社会学の基礎用語を紹介しながら、社会学のものの見方の基本を理解していくのが本講義の目標である。社会学者バーガーによれば、社会学は自分の生きている社会にある諸制度の「当たり前」を「暴き出すこと」または「仮面をはがすこと」という「暴露戦略」にある。ここでいう暴露戦略とは、我々が日常無意識に「当たり前」として「世界」を見ているその見方を分解・解体して、その成立のメカニズムを理解することを意味している。言い換えれば、「常識」を相対化することを目指しているのである。そこで、ここでは「権力」というキーワードの基に事例を紹介していく。ここで言う「権力」とは、いわゆる国家権力といった具体的な事柄ではなく、「他人の意思を無視してまでも自分の意思を貫き通そうとするあらゆる可能性」ということとしておく。授業では、参加者と共にさまざまな事例について話し合いながら、それぞれがこれまで自明としていた事柄に関する「気づき」を積み重ね、人間と社会もしくは自己自身を新たに理解し直すことを試みる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

適宜、資料を配布する。

○参考書

特になし。必要のある場合は、別途指示する。

○評価の方法

全講義出席を前提として、授業中の発言内容や積極性を基にテイクホーム試験の結果と総合して評価する。

○履修上の注意

講義の初日に参考文献一覧表を配布する。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

授業に関連する内容について独自に資料を探し、理解に努める（予習90分、復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                     | 担 当 者   | 所 属     |
|----|-----------------------------|---------|---------|
| 1  | 「権力」とは何か？日本の事例を通して          | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 2  | 人間関係における「構造」とは何か？           | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 3  | 「地位」と「役割」                   | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 4  | 「交換」と人間関係について               | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 5  | 「象徴」と意味について（言語と人間、民族と宗教）    | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 6  | 「権力」と「権威」（社会学は権力をどう捉えてきたか）  | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 7  | 「階級」「階層」「身分」（一見権力者よく見ると服従者） | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 8  | 「合理化」とは（「時間」と「人間」）          | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 9  | 「学校」と社会（教育と権力について）          | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |
| 10 | 「医療」と社会（普通であることの権力性）        | 渥 美 一 弥 | 外 来 講 師 |

| 科目番号      | 科目名     | 責任者     | 学年    |
|-----------|---------|---------|-------|
| L 1 1 5 6 | 文化人類学概論 | 田 中 大 介 | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期〔水・3〕時限〔1〕

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

我々は誰しも自分のことは自分が最もよく知っていると思いがちだが、自分という存在がどのような文化のなかで生きてきたかを省みる機会は少ない。だからこそ我々は「自己・自文化」と「他者・異文化」の間をつなぐ思考をどこかの時点で築き上げておく必要があり、同時にその思考は今後の地域医療を担う者にとって重要な資質でもある。この目論見に沿って、本授業では人間・社会・文化を深く見つめていくための視点と知識を、文化人類学の基礎理論や各地の文化的事象を通じて獲得することを目指す。また、学説史の理解なども重視するが、知識の摂取だけを重視するのではなく、文化人類学の流儀と技法を応用していくためのケース・スタディも盛り込む予定であり、全10回を通じて「自文化と異文化」を往復できる実践的な視点を深めていく。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

なし。毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

なし。参考する文献・論文等がある場合は授業内で別途指示する。

○評価の方法

全講義の出席を前提とする。質疑応答・ディスカッション・課題・レポートなどによって総合的に評価を行う。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

毎回の授業で課題を実施し、その内容を次の授業中に講評することを通じて知見を共有する。

○準備学修（予習・復習）

次回授業の内容として予定されている題材に関して文献・論文・報道その他の多面的な情報収集を行い、合わせて授業で論じられた議論の内容を振り返りながら最新の関連動向を精査する（予習90分・復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目           | 担 当 者   | 所 属       |
|----|-------------------|---------|-----------|
| 1  | 人間・社会・文化          | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 2  | 文化人類学とは何か（1）      | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 3  | 文化人類学とは何か（2）      | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 4  | 文化人類学の黎明期         | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 5  | 新進化主義             | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 6  | フィールドワークの神様と呼ばれた男 | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 7  | 機能主義のひろがり         | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 8  | 構造主義と人間観          | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 9  | 自文化／異文化の理解に向けて    | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |
| 10 | まとめ               | 田 中 大 介 | 文 化 人 類 学 |

| 科目番号      | 科目名    | 責任者     | 学年    |
|-----------|--------|---------|-------|
| L 1 1 5 7 | 医療と民俗学 | 菊 地 元 史 | 1 学 年 |

○開講時期 〔2〕学期〔火・1〕時限〔F〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 20 〕名

○ねらい

日本人はいかに病と向き合ってきたのか、日本民俗学でこれを理解しようとするのが本講義の目的である。講義は民俗学の入門からはじまり、医療と民俗学のあゆみ、そしてこれまで、日本人が病に対してどのような民俗的想像力をもって接し、対処してきたかを通観する。民俗学は、自己内省の学ともされる。そしてその資料収集には、医師の問診同様、話者との対面調査という手法が用いられる。自らの立ち位置を知り、互いの信頼関係のなかで、はじめて理解しうることが多い学問でもある。各自が民俗学を通して、自分の足もとを見つめ直し、他との共通理解を深めることができることをめざす。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

毎回の授業で資料を配布する。

○参考書

授業の中で提示する。

○評価の方法

出席、受講態度、およびレポート

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用い、各自の興味を基づいた発展学習をする（3時間相当）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目        | 担 当 者   | 所 属     |
|----|----------------|---------|---------|
| 1  | 「来るな」と「出て行け」   | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 2  | 民俗学とはどんな学問か    | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 3  | 民俗文化の分類と内容     | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 4  | 医療と民俗学のあゆみ     | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 5  | 病を見るまなざし       | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 6  | 疫神よ去れ          | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 7  | 河童の伝授した薬       | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 8  | 祈願と医療          | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 9  | 絵にあらわして見ること    | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |
| 10 | 病や悪しきものとのつきあい方 | 立 石 尚 之 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名   | 責任者     | 学年    |
|---------|-------|---------|-------|
| L1158-3 | 国際社会論 | 山 邊 昭 則 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

地域社会と国際社会は一見距離のあるテーマと捉えられる傾向がありますが、新しい国際的概念への理解を深めることにより、両者の連続性が見出せる視界が広がります。例えば、“Think globally, act locally”（地球規模で考え、足元から始めよう）、国連を中心に国際社会が目指すSDG 3 “Good health and well-beings”（全ての人々に健康と福祉を）、医学領域では、“UHC: Universal health coverage”（全ての人々が、適切な予防、治療、リハビリ、緩和ケア等の必要な保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態）等はその象徴といえます。本授業では、国際社会の様々な概念と事例への理解を深めることにより、自らの世界観を広げ、医師として主体的に地域社会へ貢献していく心を育みます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介する。

○評価の方法

フィードバックと受講姿勢の総合的評価。

○履修上の注意

本授業は、国際医療そのものを扱うものではなく、国際社会の新しい潮流への理解を深めることで、日本の社会や医療への示唆を得ることを目的とします。（国際医療そのものは他の学習機会の探索を推奨します。）

○フィードバックの方法

全体講評、個別質問への対応等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                   | 担 当 者   | 所 属        |
|----|---------------------------|---------|------------|
| 1  | 授業の進め方、受講の留意事項等           | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 2  | 国際社会の現況                   | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 3  | 国連憲章とSDGs                 | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 4  | 国連と専門機関                   | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 5  | NGO / NPO                 | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 6  | 国際社会とメディア                 | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 7  | 記録映像とともに考える               | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 8  | Universal Health Coverage | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 9  | 地域医療との関連                  | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 10 | 授業全体のまとめ                  | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |

| 科目番号    | 科目名   | 責任者     | 学年    |
|---------|-------|---------|-------|
| L1158-7 | 学術と社会 | 山 邊 昭 則 | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

大学における学びの世界潮流の一つに、各分野の専門知識の社会における展開を考える点が挙げられます。様々な社会事象を多角的に考察し、適切に判断し、行動へ移していく礎を築くものといえるでしょう。本授業では、科学、法、メディアの3つのユニットを中心に、その理解を深めます。必要に応じて、実務家による話題提供を設けます。以上を通じて、広い視野とともに、新しい時代状況に適した医師として社会へ貢献していく素養を身につけます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特に指定しない。

○参考書

視聴覚資料を含め、授業のなかで多数紹介する。

○評価の方法

フィードバックと受講姿勢の総合的評価。

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

全体講評、個別質問への対応等。

○準備学修（予習・復習）

各回のテーマの事前調査（90分）と事後考察（90分）を行う。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目               | 担 当 者   | 所 属        |
|----|-----------------------|---------|------------|
| 1  | 授業の進め方、受講の留意事項等       | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 2  | "Society 5.0"と新しい地域医療 | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 3  | 科学的知見の創出のプロセス         | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 4  | 研究倫理を身につける            | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 5  | リーガルマインド              | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 6  | 学生生活と法                | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 7  | フェイクニュース              | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 8  | 番組制作とその背景             | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 9  | コミュニティとメディア           | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |
| 10 | 授業全体のまとめ              | 山 邊 昭 則 | 学生生活支援センター |

| 科目番号      | 科目名       | 責任者     | 学年    |
|-----------|-----------|---------|-------|
| L 1 1 5 9 | 医師としての社会学 | 宮 道 亮 輔 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・5〕時限〔C〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

医学生としての学習や実習、卒業して医師になってからの初期研修、専門医や学位、その後の進路など、医師には特有のシステム・風習がある一方で、その場に直面しないと内容が伝わってきませんでした。国内外の様々な制度や調査を元に、医師人生の様々な場面について知り、ディスカッションを通して今後の考え方の基盤を作ってもらいます。非社会学者の医学者・教育工学者がお届けする当事者研究としての「医師アタマのつくり方」です。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師になるための自覚

○教科書

なし（適宜資料を配布します）

○参考書

尾藤 誠司編『医師アタマ 医師と患者はなぜすれ違うのか？』（医学書院）

○評価の方法

出席＋レポート（60点）

講義中の適切な発言（40点）

○履修上の注意

ある程度の自己開示を伴います。

○フィードバックの方法

レポートへの講評

○準備学修（予習・復習）

資料の下調べをする（予習150分、復習30分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目     | 担 当 者   | 所 属               |
|----|-------------|---------|-------------------|
| 1  | 大学での学習      | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 2  | 初期研修        | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 3  | 診療科（専門科）の選択 | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 4  | 専門医         | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 5  | 研究（学会・学位）   | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 6  | 医局          | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 7  | へき地医療と地域医療  | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 8  | 進路          | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 9  | 医療とカネ       | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 10 | まとめ         | 宮 道 亮 輔 | メデイカルシミュレーションセンター |

## 〔L12〕 自然系科目

## 自然系科目一覧

| 科目番号／授業科目 |                          | 責任者 | 学期／曜／時限                        | 授業形態     | 単 位 | 定 員 | 評 価          |
|-----------|--------------------------|-----|--------------------------------|----------|-----|-----|--------------|
| L1210     | 医学・医療における数学              | 奥 田 | I・火・3                          | 講 義      | 1   | 30  | レポート         |
| L1212     | 基礎数理遺伝学演習                | 奥 田 | II・水・1                         | 演 習      | 1   | 30  | レポート         |
| L1215     | 臨床医学と数学                  | 奥 田 | A・I・水・5<br>B・II・水・3            | 講 義      | 1   | 30  | レポート         |
| L1216     | ゲノム医療がもたらすもの             | 奥 田 | A・I・水・1<br>B・II・火・1            | 講 義      | 1   | 30  | レポート         |
| L1217     | パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療 | 奥 田 | II・火・2                         | 講 義      | 1   | 30  | レポート         |
| L1220-4   | 光科学の医学・生命科学への応用          | 佐藤文 | II・木・2                         | 講 義      | 1   | 20  | 出席・小テスト・態度   |
| L1220-5   | 疾病関連タンパク質概論              | 山 本 | II・火・2                         | 講 義      | 1   | 20  | 出席・小テスト・態度   |
| L1241-1   | 発生メカニズム                  | 佐藤滋 | I・木・2                          | 講 義      | 1   | 20  | 出席・態度・課題     |
| L1242-3   | 「形」から学ぶヒトの生物学1           | 菊 地 | I・木・3                          | 講 義      | 1   | 30  | 出席・課題        |
| L1242-4   | 「形」から学ぶヒトの生物学2           | 菊 地 | I・水・1                          | 講 義      | 1   | 30  | 出席・課題        |
| L1243     | 生物多様性を考える                | 菊 地 | A・II・火・2<br>B・II・水・3           | 講 義      | 1   | 30  | 出席・課題        |
| L1245     | 系統発生学入門                  | 菊 地 | II・水・1                         | 講 義      | 1   | 30  | 出席・課題        |
| L1254-1   | 体育学演習1                   | 板 井 | A・I・火・3<br>B・II・火・1            | 演 習      | 1   | 12  | レポート・態度 他    |
| L1254-2   | 体育学演習2                   | 板 井 | A・I・木・3<br>B・II・木・1            | 演 習      | 1   | 24  | レポート・態度 他    |
| L1254-3   | 体育学演習3                   | 板 井 | II・水・1                         | 演 習      | 1   | 12  | レポート・態度 他    |
| L1254-4   | 体育学演習4                   | 板 井 | II・水・3                         | 演 習      | 1   | 12  | レポート・態度 他    |
| L1261-1   | シミュレーション学習入門             | 宮 道 | A・I・木・2<br>B・I・木・3<br>C・II・木・1 | 講義・演習・実習 | 1   | 20  | 課題 他         |
| L1262-1   | 医療における「学習」と「教育」          | 浅 田 | A・I・木・2<br>B・II・木・2            | 講 義      | 1   | 20  | 出席・課題・レポート 他 |
| L1262-2   | ICT時代の情報活用力              | 浅 田 | A・I・火・3<br>B・II・火・2            | 講 義      | 1   | 20  | 出席・課題・レポート 他 |
| L1263     | 医療安全のための理論と実践            | 前 田 | II・木・2                         | 講義・演習・実習 | 1   | 30  | 出席・レポート 他    |
| L1270     | 医薬品研究の歴史                 | 興 水 | A・I・水・1<br>B・I・水・5             | 講義・演習    | 1   | 30  | 課題・態度        |

# 総合教育科目『数学』科目ガイド

## 教育目標

- 1) 数学がその技術的側面において医学・医療にどの様にかかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 数学の思想的な面での医学に対する応用について理解し、数学的思考を導入することで、よりエビデンスに基づいた病態の診断・治療を行えることを学ぶ。
- 3) 大学病院だけでなく、保健所、診療所、一般病院、在宅において、自分の発想（考え）に基づいて、患者、患者の家族、同僚医師、コメディカル、行政職をはじめとする多くの関連職種の人々、地域の住民、さらに地域特性などの種々の要因を考慮しつつ、患者一人一人に対応した医療を構築していくためには、数学的思考過程が必要となることを学ぶ（数学者が自分の発想に基づいて様々な条件を設定し、さらに分析を加え理論体系を創ってゆくプロセスを例にして説明する）。
- 4) 「数式とその背後にある発想」を例にし、医学専門用語の背後にある病態生理を自分なりの言葉で理解し、説明できるようにしておくことの重要性を学ぶ。
- 5) ゲノム解析技術の進展により、従来の臓器縦割りの診療のみならず、ゲノム情報に基づいた臓器横断的な医療の展開が期待されている。ゲノム情報の知見の蓄積により、個々の患者それぞれに適切な医療の推進がすすむと考えられている（ゲノム医療）。さらに、インターネット（IT）、パソコン技術の著しい発展は、大学病院などの大規模施設と地域の診療所との情報量を差のないものにする予想される。このような状況をふまえ、パソコン・ITを用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶとともにその理論的背景を解説する。さらに、今後、進展するであろうゲノム医療の「光」と「影」について共に議論を深めたいと考えている。
- 6) ベイズの定理の歴史的背景・基礎理論にふれ、臨床医学とベイズの定理のかかわりについて学ぶ。
- 7) 確率・統計学は、臨床医学・医学研究において、重要な位置を占めている。確率・統計学について基本的な概念を説明し、遺伝医学・ゲノム医療領域（数理遺伝学）を中心に確率・統計学がどのように応用されているか講義する。ゲノムの構造解析や高速ゲノム配列探索ツール（BLAST）の数学的基礎理論を学ぶとともに、パソコン・ITで実践（供覧）する。
- 8) 現在の臨床医学にとって必要不可欠であるCT・MRI・超音波診断などの画像診断について、画像を構成するための基礎となるフーリエ解析について説明するとともに、実際の超音波診断装置にふれる機会を提供したいと考えている。

## 科目の構成

- 1) 医学・医療における数学
- 2) パソコン・IT（インターネット）で学ぶゲノム医療
- 3) 基礎数理遺伝学演習
- 4) ゲノム医療がもたらすもの
- 5) 臨床医学と数学

## 備 考

数学の予備知識の総括は基本的に「医学・医療における数学」でおこなうが他の時間においてもその都度説明する。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加える。医学の専門用語についても分かりやすく説明する。

| 科目番号      | 科目名         | 責任者   | 学年    |
|-----------|-------------|-------|-------|
| L 1 2 1 0 | 医学・医療における数学 | 奥 田 浩 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期〔火・3〕 時限〔A〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

- 1) 医学・医療と数学とのかかわりを学び医学・医療における「数値」の重要性を理解する。
- 2) 自然数・整数・有理数・無理数・実数・複素数を次元という新たな視点で理解する。
- 3) 複素数の視点に立って、高校までの数学を展望する。
- 4) 連続・収束・微分・積分などが、どのような基礎概念（特に「不等式」の概念に注目して）に基づいて証明され、確立されてきたか歴史的背景をふまえて理解する。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 6) 数学の発展をもたらした基礎概念が、現在の臨床医学の中にどのように生かされているかを理解する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。新しく数式が必要な場合は、その時間内に数学的説明を加えます。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                          | 担 当 者 | 所 属 |
|----|----------------------------------|-------|-----|
| 1  | 医学・医療と数学のかかわり/臨床医学・医学研究と「数値」について | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 2  | 複素数入門：数の概念の拡張と「次元」               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 3  | ガウスの定理と3次方程式の解の公式                | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 4  | 「等式」から「不等式」へ                     | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 5  | 「不等式」による収束・極限の理解                 | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 6  | 実数の性質と連続（中間値の定理の証明）              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 7  | 微分・積分とはなにか（平均値の定理・テーラーの定理の証明）    | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 8  | 「不等式」によるロピタルの定理の証明               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 9  | ベイズの定理と臨床医学                      | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 10 | 臨床医学の中に生きている数学的基礎概念              | 奥 田 浩 | 数 学 |

| 科目番号      | 科目名       | 責任者   | 学年    |
|-----------|-----------|-------|-------|
| L 1 2 1 2 | 基礎数理遺伝学演習 | 奥 田 浩 | 1 学 年 |

○開講時期 〔2〕学期〔水・1〕時限〔H〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔 30 〕名

○ねらい

- 1) (分子) 遺伝学の基礎知識・歴史と遺伝現象の本質を担っている減数分裂について学ぶ。
- 2) 臨床医学に必須である家系図作成の基礎を学習し、実際に家系図を作成する。
- 3) 様々なメンデル遺伝病、臨床医学にとって重要なベイズの定理を学ぶ。
- 4) 保因者について学ぶとともにベイズの定理を用いて保因者のリスクを計算する。
- 5) コンピューター・IT（インターネット）を用いた遺伝子探索と分子系統樹の作成を実際に行う。
- 6) 臨床遺伝学において遺伝カウンセリングをおこなう際の数学的基礎を学ぶ。
- 7) 相談者が遺伝病をきたす病因遺伝子を有していた場合、遺伝カウンセリングにおいて、相談者にどのように説明をしてゆけばよいのか議論・意見交換を行う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

演習内で提示する。

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。座学だけでなく、パソコン・インターネット（IT）を用いて視覚化し、学習しやすくする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と演習内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                   | 担 当 者 | 所 属 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 1  | 数理遺伝学の歴史・遺伝とはなにか          | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 2  | 染色体・ゲノム・DNA・RNA・アミノ酸の基礎知識 | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 3  | 減数分裂とゲノム多様性               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 4  | 確率・統計の基礎知識                | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 5  | 家系図作成とメンデル遺伝病             | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 6  | 家系図作成の演習とベイズの定理           | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 7  | 保因者のリスク計算 1               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 8  | 保因者のリスク計算 2               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 9  | 遺伝カウンセリングの実践              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 10 | パソコンによる遺伝情報の取得と分子系統樹の作成   | 奥 田 浩 | 数 学 |

| 科目番号      | 科目名     | 責任者   | 学年    |
|-----------|---------|-------|-------|
| L 1 2 1 5 | 臨床医学と数学 | 奥 田 浩 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・5〕 時限〔C〕  
[2] 学期〔水・3〕 時限〔I〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

- 1) 数学が臨床医学（特に画像診断）に、どのようにかわり応用されているかを学ぶ。
- 2) 病気の診断における、超音波診断・CT・MRIなどの画像診断の数学的原理の理解の重要性を学ぶ。実際の超音波診断装置を体験する。
- 3) 画像を構築するための数学的基礎となるフーリエ解析について理解する。
- 4) ベイズの定理の歴史的・数学的背景を理解し、臨床医学において重要である病気の診断過程において、ベイズの定理が果たしている役割を学ぶ。
- 5) 臨床医学にとって重要なベイズの定理の応用例として、臨床疫学（感度・特異度・陽性的中率・陰性的中率）・臨床遺伝（遺伝カウンセリング）を題材として解説する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する

○参考書

講義内で提示する

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

数学（確率・統計・ベイズの定理）・基礎医学・臨床医学などの予備知識は時間内に丁寧に説明します。講義中に実際の超音波診断装置を供覧し体験してもらう予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                     | 担 当 者 | 所 属 |
|----|-----------------------------|-------|-----|
| 1  | 臨床医学における画像診断                | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 2  | 画像の構築とフーリエ解析 1              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 3  | 画像の構築とフーリエ解析 2              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 4  | CT・MRIの数学的基礎理論              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 5  | 超音波診断法の数学的理論（超音波診断装置の供覧と体験） | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 6  | 確率・統計の基礎                    | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 7  | ベイズの定理の歴史的背景と基礎理論           | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 8  | 臨床疫学とベイズの定理                 | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 9  | 臨床遺伝とベイズの定理                 | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 10 | 臨床診断過程とベイズの定理               | 奥 田 浩 | 数 学 |

| 科目番号      | 科目名          | 責任者   | 学年    |
|-----------|--------------|-------|-------|
| L 1 2 1 6 | ゲノム医療がもたらすもの | 奥 田 浩 | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期〔水・1〕時限〔B〕  
[2] 学期〔火・1〕時限〔F〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念について理解する。
- 2) 数理遺伝モデルの構成のために重要である確率・確率変数・確率分布・2項分布について学ぶ。
- 3) 遺伝的変異（多様性）を理解するとともに、その同定法（PCR法・シーケンス法）について学ぶ。
- 4) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 5) ゲノム医療（および癌ゲノム医療）について理解するとともに、ゲノム医療の「光」と「影」について学ぶ。
- 6) 保因者について学ぶとともに、ベイズの定理を用いて保因者のリスク（確率）を算出する。
- 7) ゲノム医療における遺伝カウンセリングの重要性を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

次世代シーケンサーなどのゲノム解析技術の進展によりもたらされたゲノム情報（ゲノム情報の多様性）に基づく医療（ゲノム医療）について提示します。高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                | 担 当 者 | 所 属 |
|----|------------------------|-------|-----|
| 1  | ゲノムの基礎知識               | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 2  | 遺伝（減数分裂）の基礎知識          | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 3  | 遺伝的変異（多様性）の同定法（PCR法など） | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 4  | 数理遺伝モデルと2項分布           | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 5  | 確率とベイズの定理              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 6  | パソコン・ITを用いたゲノム情報の取得    | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 7  | ゲノム医療とは何か              | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 8  | 癌ゲノム医療とは何か             | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 9  | ゲノム医療の「光」と「影」を議論する     | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 10 | ゲノム医療と遺伝カウンセリング        | 奥 田 浩 | 数 学 |

| 科目番号      | 科目名                          | 責任者   | 学年    |
|-----------|------------------------------|-------|-------|
| L 1 2 1 7 | パソコン・IT（インターネット）<br>で学ぶゲノム医療 | 奥 田 浩 | 1 学 年 |

○開講時期 〔2〕学期〔火・2〕時限〔G〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 30 〕名

○ねらい

- 1) 遺伝学の歴史・基礎知識を学ぶとともにゲノムの概念とゲノム医療について理解する。
- 2) パソコン・IT（インターネット）を用いた遺伝情報（ゲノム情報）の取得方法を学ぶ。
- 3) 世界3大遺伝情報バンク（NCBI（米国）・DDBJ（日本）・EMBL（欧州））にアクセスしゲノム情報等を取得する。
- 4) 世界3大遺伝情報バンクに共通の類似配列（ゲノム等）探査ツール（BLAST）について、理論・実践を学ぶ。
- 5) 地域医療におけるパソコン・IT（インターネット）による情報収集の重要性を学ぶ。
- 6) 進化距離の概念・理論を学び、パソコンにより分子系統樹（ウイルス・細菌・動植物等）を作成する。
- 7) パソコンによるゲノムの構造解析を実践するとともにその理論的背景を学ぶ。
- 8) ゲノム情報解析に必要な数理遺伝学（確率・遺伝統計・2項分布・ポアソン分布・正規分布等）を学ぶ。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリント等を準備する。

○参考書

講義内で提示する。

○評価の方法

レポート

○履修上の注意

パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の収集・解析の方法とその重要性について提示します。  
高校の時に生物を履習していない人や数学の不得意な人にも理解できるような内容にする予定です。

○フィードバックの方法

学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

ムードル上に掲載した資料と講義内で配布した資料の下調べをする（予習120分・復習60分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                                | 担 当 者 | 所 属 |
|----|----------------------------------------|-------|-----|
| 1  | ゲノムと遺伝学の基礎知識 1                         | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 2  | ゲノムと遺伝学の基礎知識 2                         | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 3  | 確率と数理遺伝モデル                             | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 4  | パソコン・IT（インターネット）によるゲノム情報の登録と収集         | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 5  | 世界3大遺伝情報バンク（NCBI・DDBJ・EMBL）へのアクセスと情報収集 | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 6  | 類似配列（ゲノム等）探査ツール（BLAST）の理論と実践           | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 7  | 進化距離（遺伝距離）の理論について                      | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 8  | 分子系統樹の基礎理論とパソコンによる分子系統樹の作成             | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 9  | ゲノム構造の数理解析理論とパソコンによるゲノムの構造解析の実践        | 奥 田 浩 | 数 学 |
| 10 | 地域医療におけるパソコン・ITによる情報収集の重要性             | 奥 田 浩 | 数 学 |

| 科目番号    | 科目名             | 責任者   | 学年   |
|---------|-----------------|-------|------|
| L1220-4 | 光科学の医学・生命科学への応用 | 佐藤 文菜 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

医学・生命科学の諸分野には、多数の光科学的現象が関わっており、それに付随した技術が治療や診断、及び研究に利用されている。本講義では、生体の光に対する応答、生体分子と光の相互作用、光学的計測の基礎等を学び、診療と医学研究に関わる光利用の原理を広く理解することを目的とする。ここで光とは、紫外光、可視光、赤外光、X線、 $\gamma$ 線などである。一部、光には該当しないが、電子線や粒子線も合わせて紹介する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じて資料配布

○参考書

医歯系の物理学（東京教学社）、放射線治療物理学（文光堂）、タンパク質のX線結晶解析法（J・ドレント著、シュプリンガー）、他、講義中に紹介する。

○評価の方法

講義後の小問題、出席、受講態度

○履修上の注意

板書も併用するため、ノートかメモを取ってください。

○フィードバックの方法

各小問題の解法と正解は、次の回の講義で解説する。

○準備学修（予習・復習）

参考書内の関連項目を読む（予習、復習合わせて180分程度）

適切な参考書が無い場合は、他の方法を用いて下調べなどを行う。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                   | 担当者   | 所属    |
|----|------------------------|-------|-------|
| 1  | はじめに ～光とは～             | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 2  | 光の方程式（電磁波の方程式を導く）      | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 3  | 紫外・可視・赤外光の医学利用         | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 4  | レーザー光の基礎               | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 5  | レーザー光の医学利用             | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 6  | X線・ $\gamma$ 線の基礎と医学利用 | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 7  | 放射線の基礎と医学利用            | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 8  | 光科学を用いた生命科学研究紹介 1      | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 9  | 光科学を用いた生命科学研究紹介 2      | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |
| 10 | まとめ                    | 佐藤 文菜 | 生物物理学 |

| 科目番号    | 科目名         | 責任者  | 学年   |
|---------|-------------|------|------|
| L1220-5 | 疾病関連タンパク質概論 | 山本直樹 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

遺伝子翻訳の産物であるタンパク質は生命活動の中心的な役割を果たしています。従って、疾患の発生原理を理解して臨床応用につなげるためには、関連するタンパク質の機能や構造についての知識が不可欠です。本講義では、がん、白血病、HIV、アルツハイマー病などの疾患、またCOVID-19などに関連した話題を取り上げ、タンパク質異常と疾患の関係性をできるだけやさしく解説します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じて資料を配布します。

○参考書

分子細胞生物学 第7版 石浦 章一ら 訳 東京化学同人  
 ワインバーグ がんの生物学 武藤 誠・青木 正博 訳 南江堂  
 カラー図解 免疫学の基本がわかる事典 鈴木 隆二 西東社  
 病気がみえる vol.5 血液 メディックメディア  
 病気がみえる vol.7 脳 メディックメディア  
 カラーイラストで学ぶ 集中講義 病理学 清水 道生・内藤 善哉 編集 メジカルビュー社  
 ハリソン内科学 第5版 福井 次矢・黒川 清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

○評価の方法

最後に試験を実施します。その成績に出席率および受講態度を合わせて総合的に判断します。

○履修上の注意

1 学期の復習も兼ねて、生命現象のセントラルドグマなど基本的な部分から解説する予定です。タンパク質の構造や機能異常がどのように疾患に関連しているか、興味があれば受講を検討してみてください。

○フィードバックの方法

講義ごとの質問やコメントに対して、できるだけ回答します。

○準備学修（予習・復習）

講義前にmoodle上で講義資料をアップロードするので、目を通して予習することを推奨します。また、講義後に理解が不足していると感じた部分については、参考書等を用いて復習してください。（180分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目            | 担当者  | 所属    |
|----|-----------------|------|-------|
| 1  | タンパク質の基本的な話     | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 2  | がん発症の分子論 1      | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 3  | がん発症の分子論 2      | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 4  | 遺伝子変異が起こる仕組み 1  | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 5  | 遺伝子変異が起こる仕組み 2  | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 6  | 白血病             | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 7  | 免疫概論            | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 8  | 免疫関連疾患          | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 9  | アミロイドーシスと神経変性疾患 | 山本直樹 | 生物物理学 |
| 10 | 治療法の現在と未来       | 山本直樹 | 生物物理学 |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者  | 学年   |
|---------|---------|------|------|
| L1241-1 | 発生メカニズム | 佐藤 滋 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

最近、受精卵を経ずに胚に似た「胚モデル」を作製できるようになりました。ですが、私たちの体を作り出す「発生」についてはまだ謎が多く残されています。本科目では、発生のしたたかさやしなやかさに目を向け、考え、理解を深めることを目的とします。心臓が拍動するニワトリ胚を観察したり、色素で染色した胚や脳を観察します。器官形成が進む胚の大きさや質感、種間での違い、遺伝子発現の特異性を実感してください。第一線で活躍する研究者から最先端の話題や研究生活について直接話を聞く機会も設けます。発生学、先天異常、癌や老化について学び、再生医療について考えるためにも有用です。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

毎回資料を配布します。

○参考書

阿形清和・高橋淑子監訳「ギルバート発生生物学」(MEDSci)  
 ジェイミー・A・ディヴィス著、橘明美訳「人体はこうしてつくられる」(紀伊國屋書店)  
 リアム・ドリュウ著、梅田智世訳「わたしは哺乳類です」(インターシフト)  
 安田峯男・山田重人訳「ラングマン人体発生学 第11版」(MEDSci)  
 東京大学生命科学教科書編集委員会編「現代生命科学 第3版」(羊土社)

○評価の方法

課題シートを配布し、基礎的な問題に答えてもらったり、授業で紹介した概念等を自分の言葉でまとめてもらったり、スケッチを描いてもらいます。出席、課題シート、授業への参加姿勢を総合的に評価します。

○履修上の注意

顕微鏡を使った観察も行うため、出席を重視します。

○フィードバックの方法

Moodle上で模範解答を示します。採点し、コメントを記入した課題シートを返却します。また、追加の質問等にはMoodle上で回答します。

○準備学修（予習・復習）

予習（90分）：参考書「人体はこうしてつくられる」または「わたしは哺乳類です」を読む。

復習（90分）：講義の内容で理解が不十分だと感じた部分について参考書を読んで復習する。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目            | 担当者   | 所属       |
|----|-----------------|-------|----------|
| 1  | 体の作り方を学ぶための基礎知識 | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 2  | ニワトリ胚の観察        | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 3  | 多様な細胞の作り方       | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 4  | 体節を利用した体の作り方    | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 5  | マウス胚と脳の観察       | 高橋 将文 | 解剖学      |
| 6  | 神経系の作り方         | 高橋 将文 | 解剖学      |
| 7  | 呼吸器の作り方         | 森本 充  | 外来講師     |
| 8  | 細胞死の観察と手足の作り方   | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 9  | 温かい体の作り方        | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |
| 10 | 局所ルールによる体の作り方   | 佐藤 滋  | 循環病態・代謝学 |

| 科目番号    | 科目名            | 責任者  | 学年   |
|---------|----------------|------|------|
| L1242-3 | 「形」から学ぶヒトの生物学1 | 菊地元史 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学2（1学期 [木・3]）と併せて希望する者を優先する。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味に基づいた発展学習をする（3時間相当）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目              | 担当者  | 所属   |
|----|-------------------|------|------|
| 1  | 人体のあらまし           | 菊地元史 | 自然史学 |
| 2  | からだをつくる細胞・組織      | 菊地元史 | 自然史学 |
| 3  | 栄養の摂取 I 消化管       | 菊地元史 | 自然史学 |
| 4  | 〃 II 肝胆膵          | 菊地元史 | 自然史学 |
| 5  | 呼 吸               | 菊地元史 | 自然史学 |
| 6  | 体液と循環 I 循環器       | 菊地元史 | 自然史学 |
| 7  | 〃 II 血 液          | 菊地元史 | 自然史学 |
| 8  | 体液の調節と排泄 I 腎臓・排尿路 | 菊地元史 | 自然史学 |
| 9  | 〃 II 体液の調節        | 菊地元史 | 自然史学 |
| 10 | まとめ               | 菊地元史 | 自然史学 |

| 科目番号    | 科目名            | 責任者  | 学年   |
|---------|----------------|------|------|
| L1242-4 | 「形」から学ぶヒトの生物学2 | 菊地元史 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・1〕 時限〔B〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

自分自身の体の中にある臓器の「形」や大きさをどの程度イメージできるだろうか。生物のもつ「形」を観察し、また、「形」から機能を考える科学的手法を形態学という。生物の「形」は、その一つひとつが意味をもっている。ここでは、ヒトの体の外と中とを俯瞰し、人体の成り立ち（すなわち構造と機能）をイメージできるようになることを目標とする。あまり専門的な用語等にはこだわらず、医学の入り口に立った皆さんに相応しい内容としたい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

抽選となった場合、「形」から学ぶヒトの生物学1（1 学期〔水・1〕）と併せて希望する者を優先する。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味に基づいた発展学習をする（3 時間相当）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目              | 担 当 者   | 所 属     |
|----|----------------------|---------|---------|
| 1  | からだの支持と運動Ⅰ 骨 格       | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 2  | からだの支持と運動Ⅰ 筋         | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 3  | 内部環境の調節 内分泌・自律神経     | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 4  | 情報の受容と処理Ⅰ 神経の概論・中枢神経 | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 5  | Ⅱ 感覚器                | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 6  | からだを守るしくみⅠ 皮膚・体温調節   | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 7  | Ⅱ 免 疫                | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 8  | 生殖、発生、老化Ⅰ 生殖器        | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 9  | Ⅱ 発生・成長・老化           | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 10 | まとめ                  | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |

| 科目番号      | 科目名       | 責任者     | 学年    |
|-----------|-----------|---------|-------|
| L 1 2 4 3 | 生物多様性を考える | 菊 地 元 史 | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期 [火・2] 時限 [G]  
[2] 学期 [水・3] 時限 [I]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

40億年とも言われる長い歴史の中で、生物は変異を重ねつつ命を継ぐことによって次第にその多様性を増してきた。その結果として、今の豊かな生物相は存在する。別の見方をすれば、私たちヒトを含め現在みられる生命の一つひとつは、原始の生命から途切れることなく受け継がれてきたものなのである。一方で、今、種の絶滅の速度が分化の速度を遥かに凌ぐようになってしまった現実も見つめなければならない。この授業では、生物の多様性がどのようにしてできてきたのか、現在どのように成り立っているのかを科学的に提示する。本講義の修了時には、生物多様性がどうして大切なのかという問いに各自の考えをもってほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○評価の方法

出席および授業時間内での課題

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味に基づいた発展学習をする（3時間相当）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目     | 担 当 者   | 所 属     |
|----|-------------|---------|---------|
| 1  | 序 論         | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 2  | いろいろな生物 その1 | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 3  | いろいろな生物 その2 | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 4  | いろいろな生物 その3 | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 5  | 多様性を整理する方法  | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 6  | 生命の歴史と多様性   | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 7  | 多様性が生まれる原理  | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 8  | 生物間の相互作用    | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 9  | 多様性を守る      | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 10 | まとめ         | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |

| 科目番号      | 科目名     | 責任者     | 学年    |
|-----------|---------|---------|-------|
| L 1 2 4 5 | 系統発生学入門 | 菊 地 元 史 | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

我々の身体は、原始の生命に始まり、40億年とされる長い歴史をかけて少しずつ変化を重ねて現在の形に至った。その過程（系統発生）に目を向けることによって、「ヒト」についての理解もまた驚くほど深まるだろう。例えば、どうして呼吸器と消化器は、咽頭で交差する「不都合な」構造になっているのだろうか。また、どうして聴覚と平衡覚を内耳が司るのだろうか。本科目では、これらの疑問に答える系統発生学という概念を身につけることを目標とする。学んだことを基として、病気が何故あるのかという問題を考えてみて欲しい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

プリントを配布する。

○参考書

授業の中で紹介する。

○評価の方法

出席および課題

○履修上の注意

上記の授業項目は受講者の興味に合わせて適宜変更する。受講に条件はないが、「L1243 生物多様性を考える」とは重複する部分が多い。併せて選択する場合、この点を承知しておくこと。また、受講希望者が定員を超える場合、「L1243 生物多様性を考える」を受講しない者を優先する。

○フィードバックの方法

提出された課題に対して総評をする。

○準備学修（予習・復習）

授業で提示する資料を用いて、各自の興味に基づいた発展学習をする（3時間相当）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目             | 担 当 者   | 所 属     |
|----|---------------------|---------|---------|
| 1  | 生命とは何だろう            | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 2  | ヒトへの40億年の道のり 1      | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 3  | ヒトへの40億年の道のり 2      | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 4  | 器官系の系統発生 1（感覚器）     | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 5  | 器官系の系統発生 2（呼吸器）     | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 6  | 器官系の系統発生 3（循環器・泌尿器） | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 7  | 器官系の系統発生 4（消化器）     | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 8  | 器官系の系統発生 5（神経・運動器）  | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 9  | 器官系の系統発生 6（性とは）     | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |
| 10 | まとめ                 | 菊 地 元 史 | 自 然 史 学 |

# 総合教育科目『保健体育』科目ガイド

## ○教育目標

運動は「からだ」をより良く理解するために大切な身体の活動です。医師になろうとしている皆さんには、まず「からだ」に興味を持ち、「からだの声」に耳を傾ける力を養う必要があると考えます。

「からだの声」は「いのちの声」に直結していると考えます。

また気分転換やストレスの発散、学友と交流を深める場として、さらにはより良い人格形成を促す場としても体育は格好の科目であるといえましょう。

単に丈夫で体力があるとか、運動やスポーツが得意であれば「それで良し」ということはありません。部活で好成績を収めたばかりに天狗になり了見が狭く（運動が得意でない人を馬鹿にするように）なってはいませんか。逆にスポーツが苦手なばかりに、運動から得られる喜びに気づいていないことはありませんか。とくに自治医大生にとっての体育では、身体の構造や動きを理解し動作の特性を冷静に分析できる能力を養っていく必要があると考えます。才能やカンだけに頼らない運動能力を身につけたいということです。

一方、複雑な思考やストレスを忘れてスカッとすることも運動の効用です。運動・スポーツが「できる」という主観と、「何故できるのか」「どうしたらできるようになるのか」といった客観の間をバランスよく行き来できる思考に加え、QOL向上のために運動を利用していく能力が必要であると思うのです。

そのためには「からだの声」に耳を傾け「からだで考える」ことができる力を身につけることが大切になります。そのうえで、スポーツがより上手くできるようになったり、運動することの喜びを感じることが出来るようになってほしいと願っています。

## ○科目の解説

| 分 科 名  | 開 講 時 期   | 主 な 内 容                                                                       |
|--------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 体育学演習1 | 1・2学期：火曜日 | 「トレーニング」を教材とする。自己流のトレーニングは効果が低いばかりか危険を伴うことがある。正しい体のさばき方を身につけることが大切である。        |
| 体育学演習2 | 1・2学期：木曜日 | 「硬式テニス」を教材とする。テニスは生涯体育として相応しい種目の一つである。ゲームを楽しむことのできる基礎を身につける。                  |
| 体育学演習3 | 2学期：水曜日   | 「ゴルフ」を教材とする。ゴルフは生涯体育として相応しい種目の一つである。スウィングの基礎を身につける。                           |
| 体育学演習4 | 2学期：水曜日   | 様々なスポーツを実施する中で運動に対する認識を深める。「ゆるいスポーツ」も大切な運動である。また、授業でなければやってみることのないスポーツにも挑戦する。 |

【1 学期】

| 時 限  | 火 曜 日                   | 水 曜 日                   | 木 曜 日                   |
|------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 1 時限 |                         |                         |                         |
| 2 時限 |                         |                         |                         |
| 3 時限 | L1254- 1 A<br>【体育学演習 1】 | L2301A<br>【総合体育演習A】（必修） | L1254- 2 A<br>【体育学演習 2】 |
| 4 時限 |                         | L2301B<br>【総合体育演習B】（必修） |                         |
| 5 時限 |                         |                         |                         |

【2 学期】

| 時 限  | 火 曜 日                | 水 曜 日                 | 木 曜 日                   |
|------|----------------------|-----------------------|-------------------------|
| 1 時限 | L1254-1B<br>【体育学演習1】 | L1254- 3<br>【体育学演習 3】 | L1254- 2 B<br>【体育学演習 2】 |
| 2 時限 |                      |                       |                         |
| 3 時限 |                      | L1254- 4<br>【体育学演習 4】 |                         |
| 4 時限 |                      |                       |                         |
| 5 時限 |                      |                       |                         |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者  | 学年   |
|---------|---------|------|------|
| L1254-1 | 体育学演習 1 | 板井美浩 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 演習

○履修定員 [ 12 ] 名

○ねらい

「レジスタンス・トレーニング」を教材として身体に関する考察を深める。バーベルやダンベルといったフリーウェイトや種々のトレーニング機器、あるいは器具を用いない自重トレーニングの正しい方法を理解し、また身体の構造を意識して安全にトレーニングを行っていくことのできる基礎的能力を身につける。経験者においては、行ってきたトレーニングの正誤およびトレーニングの意義について認識を新たにし、発展的なトレーニングを実施することのできる能力を養う。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。資料プリントを配布する。

○参考書

特に指定しない。

○評価の方法

「パワークリーン」動作の習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●ATLAS ARENA（トレーニングルーム）で実施する。屋内運動靴、運動着は各自用意すること。

●履修希望者が2名に満たないときは開講を見合わせる場合がある。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●レジスタンストレーニングについて、テキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●自主トレーニングを実施する（120分／週）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                        | 担当者  | 所属          |
|----|-----------------------------|------|-------------|
| 1  | 導入 施設・器具使用上の注意              | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 2  | 自重・バランス器具と身体意識              | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 3  | トレーニングマシンと身体意識              | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 4  | フリーウェイトと身体意識                | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 5  | 統合的身体操法のトレーニング（パワークリーン） その1 | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 6  | その2                         | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 7  | その3                         | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 8  | その4                         | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 9  | その5                         | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |
| 10 | まとめ パワークリーン最大挙上重量測定 レポート作成  | 板井美浩 | 保外 健来 体講 育師 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者   | 学年   |
|---------|--------|-------|------|
| L1254-2 | 体育学演習2 | 板井 美浩 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・3] 時限 [E]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 演習

○履修定員 [ 24 ] 名

○ねらい

「硬式テニス」を教材として身体に関する考察を深める。テニスは道具（ラケット）を介在して道具（ボール）を打つという身体操作が必要である。初心者は予想と乖離したボールの挙動に驚き、さらにテニスは対人スポーツであることから相手の打ち返したボールに対応することができず、しばしば向上の意欲を失ってしまうことがある。この授業では、ラケットやボール扱いについて挫折することなく乗り越えられる課題から始めてテニスに身体を慣らし、ゲームをすることの楽しみを味わえるようになってほしい。一方、熟練の経験者においては、自身の身体感覚を相手に伝える訓練と、身体に染みついた動きの癖と向き合い、新たな身体さばき方を模索してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○評価の方法

身体さばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●テニスコート（オムニコート）あるいはATLAS ARENA（メインアリーナ）で実施する。

●屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のラケットを使用してもよい。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●テニスに関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●ラケットとボールを用いて自主練習をする（120分／週）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目             | 担当者   | 所属   |
|----|------------------|-------|------|
| 1  | 導入 ラケット・ボールの特性   | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 2  | ボール慣れ ミニゲーム      | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 3  | ストローク ミニゲーム      | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 4  | ショートラリー ポイントの数え方 | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 5  | サーブ 2バウンドゲームその1  | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 6  | ロングラリー その2       | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 7  | 球出し ストローク その3    | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 8  | 球出し ボレー その4      | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 9  | サーブ ゲーム          | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 10 | まとめ ゲーム レポート作成   | 板井 美浩 | 保健体育 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1254-3 | 体育学演習3 | 板井美浩 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期〔水・1〕 時限〔H〕

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

「ゴルフ」を教材として身体に関する考察を深める。ゴルフは三世代にわたる年齢層でも対等に楽しむことができる稀なスポーツである。この授業を通して生涯体育を実践するための基礎的手段を身につけてほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己評価と研鑽

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○評価の方法

身体のさばき方に対する理解と習熟度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●初回は、ATLAS ARENA（メインアリーナ）で実施する。

●2回目以降は、授業項目の内容や天候によりATLAS ARENA（メインアリーナ）あるいはグラウンドで実施する。

●屋内・屋外用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、私物のクラブを使用してもよい。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●ゴルフに関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●スイングのイメージトレーニングを、身体を動かしながら実施する（120分／週）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                | 担当者  | 所属   |
|----|---------------------|------|------|
| 1  | 導入 ルール・マナー 用具の説明    | 板井美浩 | 保健体育 |
| 2  | ミドルアイアン ハーフスイング     | 板井美浩 | 保健体育 |
| 3  | ミドルアイアン フルスイング      | 板井美浩 | 保健体育 |
| 4  | ミドルアイアン フルスイング      | 板井美浩 | 保健体育 |
| 5  | ドライバー ハーフ～フルスイング    | 板井美浩 | 保健体育 |
| 6  | ショートアイアン ハーフ～フルスイング | 板井美浩 | 保健体育 |
| 7  | アプローチ 転がす           | 板井美浩 | 保健体育 |
| 8  | アプローチ 上げてとめる        | 板井美浩 | 保健体育 |
| 9  | パター                 | 板井美浩 | 保健体育 |
| 10 | まとめ ショートゲーム レポート作成  | 板井美浩 | 保健体育 |

| 科目番号    | 科目名     | 責任者   | 学年   |
|---------|---------|-------|------|
| L1254-4 | 体育学演習 4 | 板井 美浩 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [1]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

様々なスポーツ種目を体験することで身体に関する考察を深める。授業で実践しなければ一生やることのないかも知れないスポーツを体験してみる。激しく汗をかくことのない（ゆるい）スポーツの奥深さに気づく。この授業を通して、将来、健康教室等の指導をすることになったとき思い出することができるようなヒントを見出してほしい。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

特に指定しない。

○参考書

特に指定しない。

○評価の方法

様々なスポーツに対する受講態度と理解度およびレポート。態度評価を加味する。

○履修上の注意

●初回は、ATLAS ARENA（メイン・アリーナ）で実施する。

●屋外・屋内用運動靴、運動着は各自用意すること。その他、授業で使用する用具は概ね大学で用意するが、自転車は私物を使用してもよい。

○フィードバックの方法

●学生に講評する。

○準備学修（予習・復習）

●授業項目の実施種目に関するテキストや動画で学習する（予習30分、復習30分）。

●授業で体験した種目を通じて表出する自己の振舞いと、他者との関係を反省する（120分／週）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目             | 担当者   | 所属   |
|----|------------------|-------|------|
| 1  | 導入 キッズテニス        | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 2  | 水泳・着衣水泳          | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 3  | サイクリング（下野薬師寺跡周辺） | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 4  | サイクリング（下野国分寺跡周辺） | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 5  | グラウンドゴルフ         | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 6  | グラウンドゴルフ         | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 7  | 三角ベースボール         | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 8  | 三角ベースボール         | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 9  | 陸上競技（クラウチングスタート） | 板井 美浩 | 保健体育 |
| 10 | 陸上競技（棒高跳）        | 板井 美浩 | 保健体育 |

| 科目番号    | 科目名          | 責任者  | 学年   |
|---------|--------------|------|------|
| L1261-1 | シミュレーション学習入門 | 宮道亮輔 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[1] 学期 [木・3] 時限 [E]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

医学生として習得する必要がある手技やシミュレーション教育（学習）の手法に関する知識を事前学習してもらい、当日は医療用シミュレータを利用して実践的な演習を行う予定です。

様々な手技の経験（経験から知識・技術や態度を修得すること）を通して、経験から学習する方法やお互いに教えあうことの重要性/有効性などを実感してもらいます。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

必要に応じて資料を配付

○参考書

日本医学教育学会教材開発 SP小委員会編『シミュレーション医学教育入門』（篠原出版新社）

鈴木 克明, 美馬 のゆり『学習設計マニュアル「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』（北大路書房）

○評価の方法

・各授業中に提示する課題（10点 × 6 回）

・最終課題（10点 × 1 回）

・スキルチェック（10点 × 3 回）

○履修上の注意

手技を行うため、動きやすい服装で来てください

○フィードバックの方法

模範解答を掲載する

○準備学修（予習・復習）

手技の注意点などについて事前に学習する（予習90分）

行った手技についてグループでディスカッションする（復習90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                  | 担当者  | 所属                |
|----|---------------------------------------|------|-------------------|
| 1  | ガイダンス：シミュレーション医学教育の必要性・シミュレーションセンター見学 | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 2  | シミュレータ実践デモンストレーション                    | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 3  | シミュレータ体験 1                            | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 4  | シミュレータ体験 2                            | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 5  | シミュレータ実践 1-1                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 6  | シミュレータ実践 1-2                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 7  | シミュレータ実践 2-1                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 8  | シミュレータ実践 2-2                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 9  | シミュレータ実践 3-1                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |
| 10 | シミュレータ実践 3-2                          | 宮道亮輔 | メディカルシミュレーションセンター |

| 科目番号    | 科目名             | 責任者   | 学年   |
|---------|-----------------|-------|------|
| L1262-1 | 医療における「学習」と「教育」 | 浅田 義和 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

医師という立場は生涯、新しい知識やスキルを学び続ける「学習者」であり、同時に学生や後輩、さらには患者や市民への指導を行う「教育者」でもあります。一方、この「学習」や「教育」そのものについて学ぶ機会はほとんどありません。本科目では、入学直後の時期に「学習」と「教育」を再考し、生涯を通じて活用できる能力の習得を目指します。今後の主体的な学びを進めていく礎としてもらえれば幸いです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

鈴木克明・美馬のゆり（編著）. 学習設計マニュアル:「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン. 北大路書房. 2018

○参考書

特になし

○評価の方法

出席+省察（20点分）、課題（40点分）、最終レポート（40点分）：以下の観点で評価します。

【目標行動1】学習や教育に関する基本概念について、用語の意味や具体例を回答できる

【目標行動2】医療教育における学習・教育の知見の活用を、具体例とともに説明できる

【目標行動3】本科目での学びを実際に活用していくための計画をたてることのできる

○履修上の注意

科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールにて問い合わせること。

○フィードバックの方法

課題締め切り後にMoodle上での講評・解説を実施する。また、希望する学生には個別でのフィードバックを加える。

○準備学修（予習・復習）

・配布資料やテキストを読み込む（予習30分・復習30分程度）

・Moodleで提示された課題を実施する（予習60分・復習60分程度）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目               | 担当者   | 所属       |
|----|--------------------|-------|----------|
| 1  | ガイダンス：学習と教育をとらえ直す  | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 2  | ARCSモデル：学習意欲を高める方略 | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 3  | 学習目標：学びのゴール設定      | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 4  | 評価方法：学習過程と達成度の評価   | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 5  | 教育方法：種々の教育実践方法     | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 6  | ICT・AI等を活用した教育実践   | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 7  | 学習分析：教育データの利活用     | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 8  | 教育全体の評価と改善         | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 9  | 医療者教育と科学的な教え方・学び方  | 浅田 義和 | 医学教育センター |
| 10 | これから求められる学びの主体性    | 浅田 義和 | 医学教育センター |

| 科目番号    | 科目名         | 責任者  | 学年   |
|---------|-------------|------|------|
| L1262-2 | ICT時代の情報活用力 | 浅田義和 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

ICT (Information and Communication Technology) 時代や人工知能時代といった表現に代表されるように、様々な技術の応用・活用がなされています。医学の専門家（医師）を目指すみなさんにとっても、利用者としてこのような技術に触れる機会が増えてきます。

この科目では、事例を通じて「これからの時代、医療者に求められる情報リテラシー、情報活用力とは何だろうか」を考えていきます。個別のツールの使い方にとどまらず、ICTや人工知能、さらには今後誕生してくる様々な技術を正しく活用していくための基盤となる考え方を身につけていってください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

保本正芳. はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス. noa出版 (2022)

○参考書

特になし

○評価の方法

出席+省察 (20点分)、課題 (40点分)、最終レポート (40点分)：以下の観点で評価します。

【目標行動1】 ICTやAI等の情報技術に関し、基本概念や用語の意味を説明できる

【目標行動2】 医療分野（診療、教育、研究問わず）におけるICT活用方法を具体例とともに説明できる

【目標行動3】 医療者に求められる情報リテラシーについて、意見を述べることができる

○履修上の注意

特になし。科目内容に関する詳細相談などは yasada@jichi.ac.jp までメールすること。

○フィードバックの方法

課題締め切り後にMoodle上での解説・講評を行う。また、希望する学生には追加での個別フィードバックを実施する。

○準備学修（予習・復習）

・配布またはMoodleで提示された資料の確認（予習45分・復習45分程度）

・Moodle上の課題を実施（予習30分・復習60分程度）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目               | 担当者  | 所属       |
|----|--------------------|------|----------|
| 1  | 医療者に求められるICTリテラシー  | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 2  | データ活用に関連する情報倫理     | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 3  | ICTと学習・コミュニケーション   | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 4  | データサイエンス (1)       | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 5  | AI・生成AI (1)        | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 6  | データサイエンス (2)       | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 7  | プログラミングとアルゴリズム (1) | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 8  | AI・生成AI (2)        | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 9  | プログラミングとアルゴリズム (2) | 浅田義和 | 医学教育センター |
| 10 | 全体のまとめ             | 浅田義和 | 医学教育センター |

| 科目番号      | 科目名           | 責任者   | 学年    |
|-----------|---------------|-------|-------|
| L 1 2 6 3 | 医療安全のための理論と実践 | 前田 佳孝 | 1 学 年 |

○開講時期 〔2〕学期〔木・2〕時限〔K〕

○授業形式 講義・演習・実習

○履修定員 〔 30 〕名

○ねらい

医学知識が豊富で高い技術を持つ優れた医師でも、人間である以上、ヒューマンエラーを起こす。エラーは事故に繋がりが、健康になるために来院した患者を傷付け、命を奪う可能性すらある。エラーは「気を付けよう」といった精神論、場当たりの対策では無くせず、その発生メカニズムや人間特性などを理解した上で、エラーを減らす対策、エラーを事故に繋げない対策を講じる必要がある。本科目の目標は、ヒューマンエラー防止のための基礎的な理論・方法を学び、それを日常生活を含む、様々な場で習慣的に実践できる能力を身に付けることである。これらはできる限り早期から習慣付けることが重要であり、本科目が長い医師人生において医療安全を実践するための素地となることを期待する。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

特になし

○参考書

安全人間工学の理論と技術 ヒューマンエラーの防止と現場力の向上 丸善出版 小松原明哲

○評価の方法

- ・出席点（55点）：グループワークの成果、参加態度を総合評価
- ・最終レポート（45点）

○履修上の注意

授業構成：講義（10分）→ グループワーク（60分）

※毎回、様々なテーマに関する安全上の課題発見～対策立案をグループで行います。授業時間のほとんどをグループワークに費やし、社会人基礎力（主体性、課題発見力、創造力、チームで働く力など）を身につけることも狙いとしています。

○フィードバックの方法

毎回のグループワークの成果については、授業内で講評します。

○準備学修（予習・復習）

- ・授業までに予習用資料を読み、小テストに解答してください（予習90分）。
- ・同資料を使って、授業の復習をしてください（復習90分）。

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                 | 担 当 者   | 所 属               |
|----|-------------------------|---------|-------------------|
| 1  | ガイダンス：ヒューマンエラーの発生メカニズム  | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 2  | 人間特性とヒューマンエラー：人間の限界の体験  | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 3  | 現場改善：大学内の安全巡視体験         | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 4  | ユーザビリティ：医療機器の使いやすさの評価練習 | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 5  | マニュアル：良いマニュアルの作成練習      | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 6  | コミュニケーション：指示の出し方／受け方    | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 7  | チームワーク：チームメンバーとの合意形成    | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 8  | 事故調査・分析Ⅰ：VTAの練習         | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 9  | 事故調査・分析Ⅱ：連関図の練習         | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |
| 10 | 事故の未然防止：危険予知トレーニング      | 前 田 佳 孝 | メデイカルシミュレーションセンター |

| 科目番号      | 科目名      | 責任者  | 学年    |
|-----------|----------|------|-------|
| L 1 2 7 0 | 医薬品研究の歴史 | 輿水崇鏡 | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]  
[1] 学期 [水・5] 時限 [C]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 30 ] 名

○ねらい

- 1) 医科学への入口として、医薬品がどのように発見され、医学に応用されるようになったかについて、基礎的な事項を学習する。
- 2) 過去に問題を解決した発想を学び、今後に役立てる。
- 3) 科学的探究の歴史から、研究方法の多様性を学ぶ。
- 4) 生体と薬の基礎を学び、2年次の薬理学に役立てる。
- 5) 医学研究の素晴らしさに触れる。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

講義中に該当項目の印刷物を配布する

○参考書

- 1) 山崎幹夫：歴史の中の化合物－薬と医療の歩みをたどる－（東京化学同人）2013年

○評価の方法

指定する課題に答えるとともに、授業への積極的な参加、態度評価を加味する。

○履修上の注意

配布するテキストは和文だけでなく、専門用語の解説を加えながら英文も学ぶ。

○フィードバックの方法

授業の中で解説する

○準備学修（予習・復習）

生命科学の基礎知識についてテキスト資料を理解する。（予習90分、復習90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目     | 担 当 者 | 所 属   |
|----|-------------|-------|-------|
| 1  | 薬の研究100年史概説 | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 2  | 神経伝達        | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 3  | 受容体という発想    | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 4  | 化学合成の工夫と苦労  | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 5  | 筋肉が働く仕組みと薬  | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 6  | 感染症との戦いから学ぶ | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 7  | 成功と工夫       | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 8  | ミラクルドラッグ    | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 9  | 作業仮説から薬まで   | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |
| 10 | 新しい分子標的を探す  | 輿水崇鏡  | 分子薬理学 |

## 〔L13〕 外国語系科目

## 外国語系科目一覧

| 科目番号／授業科目                                                              | 責任者              | 学期／曜／時限            | 授業形態  | 単 位 | 定 員 | 評 価          |
|------------------------------------------------------------------------|------------------|--------------------|-------|-----|-----|--------------|
| L1315-7 World Countries and Culture I                                  | R.Dilenschneider | Ⅱ・木・1              | 演 習   | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1316-7 Critical Thinking                                              | R.Dilenschneider | Ⅰ・木・2              | 演 習   | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1316-15 Music and Lyrics                                              | R.Dilenschneider | Ⅰ・火・3<br>Ⅱ・火・2     | 講義・演習 | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1316-16 Readings & Discussions I                                      | R.Dilenschneider | Ⅰ・水・1              | 演 習   | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1316-17 Readings & Discussions II                                     | R.Dilenschneider | Ⅱ・火・1              | 演 習   | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1316-18 Creative Compositions                                         | R.Dilenschneider | Ⅱ・木・2              | 演 習   | 1   | 12  | 出席・態度・試験 他   |
| L1317-2 Cultural Tendencies of Nihon in English<br>英語で日本文化             | A.J.Lebowitz     | A・Ⅰ・火・3<br>B・Ⅱ・火・2 | 演 習   | 1   | 15  | 出席・態度・レポート 他 |
| L1317-5 Medical Ethics Topics English Discussion<br>臨床倫理英語<br>ディスカッション | A.J.Lebowitz     | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅱ・木・1 | 講義・演習 | 1   | 15  | 出席・態度・レポート 他 |
| L1317-6 Intro to Research Paper Reading<br>論文読入門                       | A.J.Lebowitz     | A・Ⅰ・水・5<br>B・Ⅱ・水・1 | 演 習   | 1   | 15  | 出席・態度・レポート 他 |
| L1317-7 Medical History Topics English Discussion<br>医学史英語ディスカッション     | A.J.Lebowitz     | A・Ⅰ・水・1<br>B・Ⅱ・火・1 | 講義・演習 | 1   | 15  | 出席・態度・レポート 他 |
| L1318 英語音声学入門<br>～正しい発声を学ぼう～                                           | A.J.Lebowitz     | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅱ・木・2 | 講義・演習 | 1   | 10  | 出席・試験        |
| L1320-3 はじめてのドイツ語                                                      | 小 野              | Ⅰ・水・1              | 講 義   | 1   | 20  | 出席・態度・課題     |
| L1320-4 ドイツ語初級                                                         | 小 野              | Ⅱ・火・1              | 講 義   | 1   | 20  | 出席・態度・課題     |
| L1350-3 はじめてのフランス語                                                     | 吹 田              | A・Ⅰ・火・3<br>B・Ⅱ・木・1 | 講義・演習 | 1   | 20  | 出席・小テスト・課題   |
| L1350-7 フランス語文法Ⅰ                                                       | 吹 田              | A・Ⅰ・木・2<br>B・Ⅰ・木・3 | 講 義   | 1   | 15  | 課題・試験 他      |
| L1350-8 フランス語文法Ⅱ                                                       | 吹 田              | A・Ⅱ・火・1<br>B・Ⅱ・火・2 | 講 義   | 1   | 15  | 課題・試験 他      |
| L1350-9 フランス語を読む                                                       | 吹 田              | Ⅱ・水・3              | 演 習   | 1   | 10  | 態度           |
| L1350-10 フランス語で歌う                                                      | 吹 田              | Ⅱ・水・1              | 演 習   | 1   | 10  | 態度           |

## 総合教育科目『英語』選択科目ガイド

英語科目は、他者との共感的なコミュニケーション能力の一環として身につける訓練をすると共に、英語を通して医学に関する問題や社会問題、異文化コミュニケーション及び世界情勢などを考える機会を提供します。

実践的なコミュニケーション能力の養成と共に、将来、英語の医学論文等を読めるように読解力を養うことを主眼としています。具体的には、医師としても必要な論理的な思考力や問題解決能力を培い、英語文献の読解能力や英語で論理的に表現する力を養います。また、社会に生きる人間を相手にする職業上必要な素養として、人間に対する理解を深めると共に、社会、倫理や異文化への問題意識を高め、多角的な視点で物事を見るために議論も行います。

英語科目は必修として 1 年時「総合英語演習」、2 年時「臨床英語」の他に、12コース（各 1 単位）の選択科目があります。

入学試験の高得点を支えた「英語学力」からコミュニケーション手段となる「英語能力」を身につけるためには、自分で努力することが不可欠です。受け身の態度で授業に出ているだけでは到底修得できませんので、積極的な授業参加と課題学習を期待します。

| 科目番号    | 科目名                           | 責任者            | 学年    |
|---------|-------------------------------|----------------|-------|
| L1315-7 | World Countries and Culture I | Dilenschneider | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The development of the Internet with websites such as Facebook, Skype, YouTube and iTunes has made the world smaller than ever before. As a result, students will likely be communicating with people from different countries and cultures, either in or outside Japan, after they graduate. Therefore, in order to understand people from different cultures, the purpose of this course will provide students the opportunity to learn about eight countries in four continents around the world through the context of English. We will use materials provided by the instructor as well as the World Adventures textbook.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

他者への理解

○教科書

World Adventures by Scott Berlin and Megumi Kobayashi

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentation 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Understanding and appreciation of Asian and African cultures.

○フィードバックの方法

Comments on assignments and presentations.

○準備学修 (予習・復習)

Materials provided by instructor and final exam. (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目             | 担 当 者          | 所 属           |
|----|---------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | Philippines         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Vietnam             | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | France              | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | Denmark             | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | Egypt               | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | South Africa        | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | Brazil              | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | Peru                | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Exam          | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号    | 科目名               | 責任者            | 学年   |
|---------|-------------------|----------------|------|
| L1316-7 | Critical Thinking | Dilenschneider | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course is designed to help students think critically and initiate discussions regarding a variety of topics. Therefore, students who enroll in this course should feel comfortable expressing their opinions as much of the content which engage students in class discussions. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading and writing, skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

医師になるための自覚

○教科書

Think Smart - Critical Thinking in Critical Times by Michael Hood

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Develop critical thinking skills concerning a variety of issues.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修 (予習・復習)

Materials from instructor and final exam. (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                             | 担当者            | 所属            |
|----|----------------------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction              | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | Study Abroad                     | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Immigration                      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | Women in the Workplace           | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | Etiquette in the Digital Age     | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | American Military Bases in Japan | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | Taxes                            | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | Living Together Before Marriage  | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | Animal Rights                    | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Exam                       | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号     | 科目名              | 責任者            | 学年   |
|----------|------------------|----------------|------|
| L1316-15 | Music and Lyrics | Dilenschneider | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 12 ] 名

○ねらい

Music is the bridge that helps connect people around the world. To understand the cultural and historical influence of modern music and to help establish connections with patients and medical professionals from around the world, this course will provide students with the opportunity to learn about the music and lyrics from pop songs and musicians from the past and the present. We will use materials provided by the instructor. In addition, the instructor will speak in English and students will be encouraged to practice their English reading, writing, listening, speaking and singing skills with other students.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor.

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentations 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Students should have communication skills and an enthusiasm for popular music.

The songs and musicians studied in the first (spring) term may vary from those studied in the second (autumn) term.

○フィードバックの方法

Comments on assignments and presentations

○準備学修 (予習・復習)

Materials from the instructor. (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                | 担当者            | 所属            |
|----|-------------------------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction                 | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | The Beatles (Maroon 5)              | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Ben E. King (Bruno Mars)            | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | Earth, Wind and Fire (Foo Fighters) | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | The Turtles (Green Day)             | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | The Monkees (Justin Bieber)         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | The Carpenters (Lady Gaga)          | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | John Denver (Imagine Dragons)       | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | Bobby Picket (Adele)                | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Exam                          | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号     | 科目名                      | 責任者            | 学年    |
|----------|--------------------------|----------------|-------|
| L1316-16 | Readings & Discussions I | Dilenschneider | 1 学 年 |

○開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to read and discuss topics related to issues about society and wellness. Students will be challenged to read critically and encouraged to share their thoughts and opinions. We will use the course textbook and materials provided by the instructor. The instructor will communicate in English to foster students' reading, writing, listening and speaking skills.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

医師になるための自覚

○教科書

Reading for Today: Concepts (Fourth Edition) by Lorraine C. Smith and Nancy Nici Mare

○参考書

None

○評価の方法

Attendance, completion of in-class materials, participation, presentations and the final exam will be the most important points for this course. Supplement reading materials appropriate for the course may be provided by the instructor.

○履修上の注意

None

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修 (予習・復習)

Materials provided by instructor and final exam. (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                                    | 担 当 者          | 所 属           |
|----|--------------------------------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction                        | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | Society Issue 1 : Background Reading       | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Society Issue 1 : Analyses and Discussion  | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | Society Issue 2 : Background Reading       | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | Society Issue 2 : Analyses and Discussion  | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | Wellness Issue 1 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | Wellness Issue 1 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | Wellness Issue 2 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | Wellness Issue 2 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Exam                                 | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号     | 科目名                       | 責任者            | 学年    |
|----------|---------------------------|----------------|-------|
| L1316-17 | Readings & Discussions II | Dilenschneider | 1 学 年 |

○開講時期 [2] 学期〔火・1〕 時限〔F〕

○授業形式 演習

○履修定員 [ 12 ] 名

○ねらい

This course will provide students with the opportunity to read and discuss topics related to issues about science and history. Students will be challenged to read critically and encouraged to share their thoughts and opinions. We will use the course textbook and materials provided by the instructor. The instructor will communicate in English to foster students' reading, writing, listening and speaking skills.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor.

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Presentations 33%, Final Exam 33%

○履修上の注意

Develop reading skills for different types of English passages.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修（予習・復習）

Handouts. (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                                   | 担 当 者          | 所 属           |
|----|-------------------------------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction                       | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | Science Issue 1 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Science Issue 1 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | Science Issue 2 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | Science Issue 2 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | History Issue 1 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | History Issue 1 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | History Issue 2 : Background Reading      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | History Issue 2 : Analyses and Discussion | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Exam                                | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号     | 科目名                   | 責任者            | 学年   |
|----------|-----------------------|----------------|------|
| L1316-18 | Creative Compositions | Dilenschneider | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 演習

○履修定員 [12] 名

○ねらい

The purpose of this course is to teach student to logically express themselves in writing. Students will learn to create, organize and compose compositions concerning issues and topics related to their backgrounds and interests using a variety of different formats and styles to summarize ideas, identify preferences and express persuasive ideas.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

医師になるための自覚

○教科書

Materials provided by the instructor

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Papers 33%

○履修上の注意

Gain and understanding of how to write English composition using different formats.

○フィードバックの方法

Comments on assignments.

○準備学修 (予習・復習)

Material provided by the instructor (180 minutes)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                               | 担当者            | 所属            |
|----|------------------------------------|----------------|---------------|
| 1  | Course Introduction & Essay-Intros | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 2  | Composition I - Background         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 3  | Composition I - Background         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 4  | Composition II - Summaries         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 5  | Composition II - Summaries         | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 6  | Composition III - Preferences      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 7  | Composition III - Preferences      | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 8  | Composition IV - Persuasive        | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 9  | Composition IV - Persuasive        | Dilenschneider | E n g l i s h |
| 10 | Final Compositions Due             | Dilenschneider | E n g l i s h |

| 科目番号    | 科目名                                                | 責任者      | 学年   |
|---------|----------------------------------------------------|----------|------|
| L1317-2 | Cultural Tendencies of Nihon in English<br>英語で日本文化 | Lebowitz | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[2] 学期 [火・2] 時限 [G]

○授業形式 演習

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

This class examines prominent cultural tendencies in this country as explained in English. Using self-reflection, students will discuss personal experiences with these concepts. Connections will be made with community medicine and patient communication.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

他者への理解

○教科書

None

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project & Report 33%

○履修上の注意

特になし。

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修 (予習・復習)

予習 (配布資料) (180分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                  | 担当者           | 所属            |
|----|---------------------------------------|---------------|---------------|
| 1  | Major Religious Traditions in Nihon   | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 2  | Origins of Ethnicity: Jōmon and Yayoi | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 3  | Kami and Festivals                    | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 4  | Social Harmony                        | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 5  | Food Culture: Fish vs Meat            | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 6  | Ichirō                                | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 7  | Little Traditions                     | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 8  | Disasters                             | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 9  | 「生き残り」 "Left Behind with Life"        | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 10 | Review & Summary                      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |

| 科目番号    | 科目名                                                        | 責任者      | 学年   |
|---------|------------------------------------------------------------|----------|------|
| L1317-5 | Medical Ethics Topics English Discussion<br>臨床倫理英語ディスカッション | Lebowitz | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning ethical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

倫理的行動と社会規範の順守

○教科書

None

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）（180分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                  | 担当者           | 所属            |
|----|-----------------------|---------------|---------------|
| 1  | Course Introductions  | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 2  | Informed Consent      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 3  | Keeping Promises      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 4  | Surrogates            | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 5  | Surgery               | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 6  | Organ Transplantation | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 7  | Pediatrics            | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 8  | Public Health         | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 9  | Gifts                 | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 10 | Final Discussion      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |

| 科目番号    | 科目名                                      | 責任者      | 学年   |
|---------|------------------------------------------|----------|------|
| L1317-6 | Intro to Research Paper Reading<br>論文読入門 | Lebowitz | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [水・5] 時限 [C]  
[2] 学期 [水・1] 時限 [H]

○授業形式 演習

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

This course introduces basic elements of English research papers (RPs) . We will examine RPs and analyze their elements, such as: Title, Abstract, Introduction, Results, and Discussion. The specific function of these elements in communication, and their connection to the general medical field will be discussed.

○到達目標 (モデルコアカリキュラム 対応項目)

PS 専門知識に基づいた問題解決能力

○コンピテンシー (ディプロマポリシー 対応項目)

医師に必要な教養と医学的知識

○教科書

None

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Final Project 33%

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

課題の採点・コメント、授業中のコメント

○準備学修 (予習・復習)

予習 (配布資料) (180分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                 | 担当者           | 所属            |
|----|--------------------------------------|---------------|---------------|
| 1  | Outline of RP Writing, Titles I      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 2  | Titles II, Abstracts I               | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 3  | Abstracts II                         | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 4  | Introductions I: Establish Territory | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 5  | Introductions II: Establish Niche    | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 6  | Introductions III: Occupy Niche      | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 7  | Results                              | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 8  | Discussions I: Opening               | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 9  | Discussions II: Limitations          | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 10 | Discussions III: Future Directions   | Adam Lebowitz | E n g l i s h |

| 科目番号    | 科目名                                                        | 責任者      | 学年   |
|---------|------------------------------------------------------------|----------|------|
| L1317-7 | Medical History Topics English Discussion<br>医学史英語ディスカッション | Lebowitz | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [水・1] 時限 [B]  
[2] 学期 [火・1] 時限 [F]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 15 ] 名

○ねらい

English discussion is a necessary skill for developing professional relations with international colleagues. In this class, we will practice discussion by responding to questions and providing opinions concerning historical issues in medicine. Class focus is on asking and answering questions, and learning topic-related vocabulary.

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

医師になるための自覚

○教科書

None

○参考書

None

○評価の方法

Attendance + Attitude 34%, Weekly Homework 33%, Short Vocabulary Tests & Report 33%

○履修上の注意

None

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テスト・レポート採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）(180分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                          | 担当者           | 所属            |
|----|-------------------------------|---------------|---------------|
| 1  | Introduction                  | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 2  | History of Anatomy            | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 3  | History of Pharmacology       | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 4  | History of Medical Education  | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 5  | History of Epidemic Diseases  | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 6  | History of Ideas about Blood  | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 7  | History of Medical Technology | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 8  | History of Surgery            | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 9  | History of Women and Medicine | Adam Lebowitz | E n g l i s h |
| 10 | History of Pediatrics         | Adam Lebowitz | E n g l i s h |

| 科目番号      | 科目名                    | 責任者      | 学年    |
|-----------|------------------------|----------|-------|
| L 1 3 1 8 | 英語音声学入門<br>～正しい発声を学ぼう～ | Lebowitz | 1 学 年 |

- 開講時期 [1] 学期 [木・2] 時限 [D]  
[2] 学期 [木・2] 時限 [K]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 10 ] 名

○ねらい

本来はコミュニケーション手段としての英語であるが、高校までの学習は読解中心にならざるを得ず、英語を聞き取り話す練習が不足している学生も多くいるであろう。英語の4技能のうちlistening comprehensionならびにspeakingの基礎となる発音とリズムを集中的に学習し、英語運用能力を向上させることを本講座の目標とする。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

自己評価と研鑽

○教科書

特に指定せず、随時資料を配布する。

○参考書

英語音声学入門 松坂ヒロシ著 研究社

○評価の方法

授業の出席およびテスト

○履修上の注意

特になし

○フィードバックの方法

授業中のコメント、テストの採点

○準備学修（予習・復習）

予習（配布資料）(180分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目   | 担 当 者 | 所 属     |
|----|-----------|-------|---------|
| 1  | イントロダクション | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 2  | 母音 1      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 3  | 母音 2      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 4  | 母音 3      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 5  | 母音 4      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 6  | 子音 1      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 7  | 子音 2      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 8  | 子音 3      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 9  | 子音 4      | 清水素子  | 外 来 講 師 |
| 10 | テスト       | 清水素子  | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名       | 責任者   | 学年   |
|---------|-----------|-------|------|
| L1320-3 | はじめてのドイツ語 | 小野 純一 | 1 学年 |

○開講時期 [1] 学期〔水・1〕 時限〔B〕

○授業形式 講義

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心を向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

『Panorama Deutsch Express』白水社、2022

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

事前の知識がまったくない状態で受講可能。

○フィードバックの方法

試験の結果について、講評を示し、模範解答等を掲載します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定の課の単語の意味を辞書で調べ、ノートに整理してきてください。また、教科書をあらかじめ音読してきてください。(90分)

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理してきてください。また、教科書を再度、音読してきてください。(90分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目           | 担 当 者   | 所 属 |
|----|-------------------|---------|-----|
| 1  | 子音と母音の発音          | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 2  | あいさつ（単数 語順） 1     | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 3  | あいさつ（単数 語順） 2     | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 4  | 紹介（複数 動詞sein 数） 1 | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 5  | 紹介（複数 動詞sein 数） 2 | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 6  | 持ち物（性 冠詞 複数形） 1   | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 7  | 持ち物（性 冠詞 複数形） 2   | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 8  | 食事（haben） 1       | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 9  | 食事（haben） 2       | 中 山 純 一 | 哲 学 |
| 10 | 家族（冠詞類） 1         | 中 山 純 一 | 哲 学 |

| 科目番号    | 科目名    | 責任者  | 学年   |
|---------|--------|------|------|
| L1320-4 | ドイツ語初級 | 小野純一 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期〔火・1〕 時限〔F〕

○授業形式 講義

○履修定員 [20] 名

○ねらい

ドイツ語の初歩を学びます。簡単な文法・単語を駆使した日常会話を目指し、次のステップに進むための文法の重要項目も身につけます。ドイツ語はヨーロッパの主要言語であるだけでなく、人類の活動にとっても重要な言語の一つです。政治・経済だけでなく、文学・哲学・科学など人類文化にもきわめて重要な貢献の数々を残しています。また芸術、とくに音楽や絵画において、創作においても歴史を知る上でも研究にとっても、ドイツ語は最も重要なツールの一つです。ドイツ語を窓口にしてヨーロッパやその他の地域に関心を向け、知的な広さや深みを実現できる言語的な基礎を提供します。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

『Panorama Deutsch Express』白水社、2022

○参考書

『独和大辞典コンパクト版』小学館

○評価の方法

授業参加態度、出席、課題によって評価する。

○履修上の注意

文法を網羅せず、会話を重視します。「はじめてのドイツ語」を履修していること。

○フィードバックの方法

試験の結果について、講評を示し、模範解答等を掲載します。

○準備学修（予習・復習）

予習として、学習予定の課の単語の意味を辞書で調べ、ノートに整理してきてください。また、教科書をあらかじめ音読してきてください。(90分)

復習として、授業中に板書された内容をノートに体系的に整理してきてください。また、教科書を再度、音読してきてください。(90分)

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目             | 担 当 者 | 所 属 |
|----|---------------------|-------|-----|
| 1  | 家族（冠詞類） 2           | 中山純一  | 哲 学 |
| 2  | 好きなこと（語幹変化動詞、命令形） 1 | 中山純一  | 哲 学 |
| 3  | 好きなこと（語幹変化動詞、命令形） 2 | 中山純一  | 哲 学 |
| 4  | ファッション（3格支配の前置詞）    | 中山純一  | 哲 学 |
| 5  | 街にて（4格支配の前置詞、複合動詞）  | 中山純一  | 哲 学 |
| 6  | 休暇（助動詞、未来形、zu不定詞） 1 | 中山純一  | 哲 学 |
| 7  | 休暇（助動詞、未来形、zu不定詞） 2 | 中山純一  | 哲 学 |
| 8  | 身体（再帰、従属文）          | 中山純一  | 哲 学 |
| 9  | 活動（過去形、現在完了）        | 中山純一  | 哲 学 |
| 10 | 天候（非人称、比較級・最上級）     | 中山純一  | 哲 学 |

| 科目番号    | 科目名        | 責任者   | 学年   |
|---------|------------|-------|------|
| L1350-3 | はじめてのフランス語 | 吹田 映子 | 1 学年 |

- 開講時期 [1] 学期 [火・3] 時限 [A]  
[2] 学期 [木・1] 時限 [J]

○授業形式 講義・演習

○履修定員 [ 20 ] 名

○ねらい

カフェオレ、レジュメ、サボる、…。日本語の中に、また英語の中にも、実は多くのフランス語が入り込んでいます。また、言語としてフランス語が使われている地域はフランスだけではありません。隣のベルギーを始め、ルクセンブルク、スイス、ルーマニア、カナダ（ケベック州）、モロッコ、アルジェリア、マリ、カメルーン、コンゴ等、様々な地域があります。フランス語の学習を機にあなたの世界を広げてみませんか。フランス語に限らず、言語の習得は新たな世界観の獲得を意味します。この授業では会話表現を中心に、お互いを知るための道具としてフランス語を学びます。また、教材として用いる映画はバリの中学校の様子をドキュメンタリー風に撮ったものです。本講義を通じ、フランス語とそれに関連する文化への関心を高めてください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

資料を配布します。

○参考書

佐藤康『フランス語のしくみ《新版》』白水社

じゃんぼ〜西、カリン・西村『フランス語っばい日々』白水社

○評価の方法

出席、小テスト、課題

○履修上の注意

なし

○フィードバックの方法

提出物を採点して返す

○準備学修（予習・復習）

課題への取り組み（90分）、小テストの勉強（90分）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目             | 担 当 者   | 所 属 |
|----|---------------------|---------|-----|
| 1  | 自己紹介をする             | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 2  | 授業中に使う表現を覚える        | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 3  | 主語に合わせて動詞を活用させる     | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 4  | 命令文の作り方             | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 5  | 否定文の作り方             | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 6  | 疑問文の作り方（1）Oui / Non | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 7  | 疑問文の作り方（2）様々な疑問詞    | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 8  | 理由を尋ねる・説明する         | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 9  | 復習と応用（1）            | 吹 田 映 子 | 文 学 |
| 10 | 復習と応用（2）            | 吹 田 映 子 | 文 学 |

| 科目番号    | 科目名       | 責任者   | 学年   |
|---------|-----------|-------|------|
| L1350-7 | フランス語文法 I | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期   〔1〕学期〔木・2〕時限〔D〕  
              〔1〕学期〔木・3〕時限〔E〕

○授業形式   講義

○履修定員   〔 15 〕名

○ねらい

フランス語入門の授業です。目安としてフランス語検定5級程度までの学習を目標にします。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

澤田 直ほか著『アミカルマン〈プリュス〉（二訂版）』駿河台出版社、2024年2月刊行予定、2600円＋税

○参考書

仏和辞典（『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社等）

○評価の方法

毎回の課題提出と期末の仏語検定5級の模擬試験提出。

○履修上の注意

語学習得にはどうしてもある程度の時間をかける必要があります。課題を通じての復習を毎週続けて下さい。

○フィードバックの方法

課題と模擬試験は直して返却します。

○準備学修（予習・復習）

（復習）課題を書き写し、音声を聴きとり、解答を書き、くり返し音読する。（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                                          | 担 当 者  | 所 属     |
|----|--------------------------------------------------|--------|---------|
| 1  | Unité 0：挨拶, アルファベ                                | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 2  | Unité 1：不定冠詞・定冠詞, 名詞の性と数                         | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 3  | 主語人称代名詞, être, 縮約                                | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 4  | Unité 2：avoir, 疑問文, 形容詞, 強勢形                     | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 5  | 否定文, 否定のde                                       | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 6  | Unité 3：er動詞, 指示形容詞                              | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 7  | ir動詞, 所有形容詞, 部分冠詞                                | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 8  | Unité 4：aller, venir, faire, 非人称主語               | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 9  | prendre, 命令法, 時間                                 | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 10 | Unité 5：疑問形容詞, pouvoir, vouloir, devoir, il faut | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名      | 責任者   | 学年   |
|---------|----------|-------|------|
| L1350-8 | フランス語文法Ⅱ | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔火・1〕時限〔F〕  
〔2〕学期〔火・2〕時限〔G〕

○授業形式 講義

○履修定員 〔 15 〕名

○ねらい

1 学期から引き続き、目安としてフランス語検定 4 級程度までの学習を目標にします。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

澤田 直ほか著『アミカルマン〈プリュス〉（二訂版）』駿河台出版社、2024年 2 月刊行予定、2600円＋税

○参考書

仏和辞典（『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社等）

○評価の方法

毎回の課題提出と期末の仏語検定 4 級の模擬試験提出。

○履修上の注意

- ・ 1 学期に「フランス語文法Ⅰ」を履修したか、それと同程度の知識がすでにあることが前提です。
- ・ 「はじめてのフランス語」既修者が受講する場合は、1 学期に習っていない文法事項も前提に入っていることを念頭において下さい。履修するか迷ったら事前に相談してもらっても OK です。
- ・ 語学習得にはどうしてもある程度の時間をかける必要があります。課題を通じての復習を毎週続けて下さい。

○フィードバックの方法

課題と模擬試験は直して返却します。

○準備学修（予習・復習）

（復習）課題を書き写し、音声聴きとり、解答を書き、くり返し音読する。（3 時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目                   | 担 当 者  | 所 属     |
|----|---------------------------|--------|---------|
| 1  | Unité 5：代名動詞              | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 2  | Unité 6：人称代名詞（直接目的補語），比較級 | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 3  | 人称代名詞（間接目的補語），最上級         | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 4  | Unité 7：複合過去（avoir＋過去分詞）  | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 5  | 複合過去（être＋過去分詞）           | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 6  | Unité 8：半過去               | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 7  | 関係代名詞，強調構文                | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 8  | 受動態，接続詞que                | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 9  | Unité 9：単純未来              | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 10 | ジェロンディフ，感嘆文，y，en          | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |

| 科目番号    | 科目名      | 責任者   | 学年   |
|---------|----------|-------|------|
| L1350-9 | フランス語を読む | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 [2] 学期 [水・3] 時限 [1]

○授業形式 演習

○履修定員 [10] 名

○ねらい

フランス語の短い文章の読解をおこないます。会話の場合は条件反射的なパターンによる対応が要求されますが、読むことはそれと逆に、時間をかけた高度に知的・感性的な（ゆえに断然面白い）経験である、といえるでしょう。辞書を引き、文法知識と照らし合わせて文構造を把握し、文の連鎖から生じる文脈の圏内で意味を思い巡らすことになります。授業ではこの読解のプロセスを意識的にたどります。仏語入門の段階では、易しい文章であっても知らない語彙と文法事項の連続であることは避けられませんが、それでも教科書の空疎な例文をこえたフランス語を知りたい方、ぜひ挑戦してみてください。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

授業時にコピーを配布します。文学的テキストを予定してはいますが、受講者の要望があればできるだけそれに沿うようなジャンルとタイプの文章にしたいと思います。

○参考書

仏和辞典が必要です（『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社等）。貸し出すこともできるので相談して下さい。

○評価の方法

授業時の読解作業への辛抱強い傾注。

○履修上の注意

- ・1学期に「フランス語文法Ⅰ」を履修したか、それと同等の知識があることが前提です。
- ・「フランス語文法Ⅱ」も同時に履修してもらえらるならば、文法事項の学習はより容易にはなると思います。
- ・読むことが好きな人、英語の長文読解が得意な人などは、より取り組みやすいかもしれません。

○フィードバックの方法

分からない点については、一文毎に丁寧に理解へのプロセスをたどります。

○準備学修（予習・復習）

（予習）分かる範囲で、語彙を調べてテキストを読む予習をして下さい。何が分からないのかを大ざっぱにでもつかめたらOKです。（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授 業 項 目 | 担 当 者  | 所 属     |
|----|---------|--------|---------|
| 1  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 2  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 3  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 4  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 5  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 6  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 7  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 8  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 9  | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 10 | 読解演習    | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |

| 科目番号     | 科目名      | 責任者   | 学年   |
|----------|----------|-------|------|
| L1350-10 | フランス語で歌う | 吹田 映子 | 1 学年 |

○開講時期 〔2〕学期〔水・1〕時限〔H〕

○授業形式 演習

○履修定員 〔 10 〕名

○ねらい

フランス語のポップ・ロックをみなさんに歌ってもらいます。古典的な詩の朗読・暗唱はフランスの学校では言語教育の重要な一環になっていますが、私たちは現代の la chanson pop によってフランス語の中にすべりこんでみましょう。知らない語彙と文法事項はたくさん出てきますが（そしてそれは勉強してもらいますが）、歌がその難路をより楽に運んでくれるはずです。フランス語圏のポップミュージックはどういうわけか日本ではほとんど全く紹介されていませんから、あちらの文化に足を踏み入れるよいチャンスにもなれば幸いです。

○到達目標（モデルコアカリキュラム 対応項目）

PR プロフェッショナルリズム

○コンピテンシー（ディプロマポリシー 対応項目）

他者への理解

○教科書

授業時にコピーを配布します。

○参考書

授業内容は動詞活用の学習を念頭に選曲していますが、他の候補曲もいくつか挙げておきます。よかったらぜひ聴いてみてください。

«Nos célébrations», Indochine (youtube.com/watch?v=f3Pw36EFRV0)

«La vie est belle», Indochine (youtube.com/watch?v=IdHjP2JWuGA)

«Sur mon épaule», Les cowboys fringants (youtube.com/watch?v=XaUdyuOfwa4)

«Ici-bas», Les cowboys fringants (youtube.com/watch?v=IYyqwoQdTQI)

«Les séparés», Julien Clerc (youtube.com/watch?v=EgcULJSRK7M)

«Depuis que les bals sont fermés», Cathy Renoir (youtube.com/watch?v=VOX-dmYDUZ8)

○評価の方法

- ・上手下手は関係ありません。授業に出る以上は憚りなく大声で歌うこと！
- ・受講者数にもよりますが、最終回には講師の前でどれか一曲を1人で歌ってもらう予定です。

○履修上の注意

- ・1学期に「フランス語文法Ⅰ」を履修したか、それと同程度の知識がすでにあることが前提です。
- ・「はじめてのフランス語」既修者が受講する場合は、1学期に習っていない文法事項も前提に入っていることを念頭において下さい。履修するか迷ったら事前に相談してもらってもOKです。
- ・フランス語の授業であって、歌唱法・発声法のそれではありません。講師は音楽のど素人にすぎず、カラオケが得意でもないのでお間違えないよう。

○フィードバックの方法

他の授業ではおろそかになりがちな発音について、アドヴァイスできるようにします。

○準備学修（予習・復習）

（復習）歌詞の意味と文構造をおさえた上で、対象曲を繰り返し聴き、メロディによってうまく口と舌が動くようになるまで口ずさんでください。（3時間）

○授業内容、授業項目

| 回数 | 授業項目                                                                                    | 担当者    | 所属      |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------|
| 1  | 歌Ⅰ（単純未来）：《Sensation》, Jean-Louis Aubert (youtube.com/watch?v=0eEQpJ_oTyg) 日本語訳と文法解説     | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 2  | 朗読、歌う                                                                                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 3  | 歌う                                                                                      | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 4  | 歌Ⅱ（複合過去）：《J'ai demandé à la lune》, Indochine (youtube.com/watch?v=KAOmC5qT02) 日本語訳と文法解説 | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 5  | 朗読、歌う                                                                                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 6  | 歌う                                                                                      | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 7  | 歌Ⅲ（半過去）：《Ma bohème》, Chamblais Réveil (youtube.com/watch?v=sdPJvVRRBrY) 日本語訳と文法解説       | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 8  | 朗読、歌う                                                                                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 9  | 歌う                                                                                      | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |
| 10 | 一人で歌う                                                                                   | 鈴木 俊 弘 | 外 来 講 師 |

編 集 教 務 委 員 会

編集責任者 教 務 委 員 長

編集担当者 総 合 教 育 部 会 長

学事課 教務係